

ユーザーズ・マニュアル

_ASTROLAB 37

ARTURIA

_The sound explorers

スペシャル・サンクス

ディレクション

Frédéric Brun

Tobias Baumbach

プロダクト・マネジメント

Pierre Pfister

Farès Mezdoor

プロジェクト・マネジメント

Philippe Cavenel

ソフトウェア設計

Baptiste Aubry

Marie Pauli

Patrick Perea

Fabien Meyrat

Mathieu Nocenti

Alexandre Adam

Stéphane Albanese

Adrien Tisseraud

Pierre-Lin Laneyrie

Yann Burrer

Pascal Douillard

Simon Ardon

Raynald Dantigny

Loris De Marco

Christophe Luong

Corentin Comte

Cyril Lepinette

Pierre Mazurier

電子設計

Loïc Brunet-Jailly

Nadine Lantheaume

ファームウェア設計

Osée Rajaiah

Yannick Dannel

Thibault Senac

機構設計

Antonio Eiras

Maxime Perrier

生産技術およびパッケージング

Jérôme Blanc

Morgan Perrier

Agustina Passeron

生産試験

Aurore Baud

Valentin Lepetit

Pedro Martins Basso

Zhuan Yang

品質保証

Matthieu Bosshardt

Germain Marzin

Marion Loubet

システム設計

Markus Bollinger

Cyril Protat

Timothée Behety

Victor Krawiec

Charles Leo Mc Manus

Antoine Moreau

Robert Bocquier

サウンド・デザイン

Athan Billias

Lily Jody

Quentin Feuillard

Stewart Walker

モバイル・アプリケーション

Camille Maurel

Jérémy Blanc Tailleux

ユーザー・ドキュメント制作

Stephen Fortner (writer)

Félicie Khenkeo

Holger Steinbrink (German)

Ana Artalejo (Spanish)

Sven Bornemark (writer)

Charlotte Métais (French)

Minoru Koike (Japanese)

ベータ・テストिंग

Richard Courtel

Davide Puxeddu

Arthur Peytard

Terry Mardsen

Gary Morgan

Sean Weitzmann

Bastiaan Barth

Paolo Apollo Negri

Are Leistad

Marco "Koshdukai" Correia

© ARTURIA SA - 2025 - All rights reserved.

26 avenue Jean Kuntzmann

38330 Montbonnot-Saint-Martin

FRANCE

www.arturia.com

本マニュアルの情報は予告なく変更される場合があります、それについて Arturia は何ら責任を負いません。許諾契約もしくは秘密保持契約に記載の諸条項により、本マニュアルで説明されているソフトウェアを供給します。ソフトウェア使用許諾契約には合法的使用の条件が規定されています。本製品を購入されたお客様の個人的な使用以外の目的で本マニュアルの一部、または全部を Arturia S.A. の明確な書面による許可なく再配布することはできません。

本マニュアルに記載の製品名、ロゴ、企業名はそれぞれの所有者に帰属する商標または登録商標です。

Manual version: 1.0.0

Revision date: 3 July 2026

AstroLab 37 をお買い上げいただきありがとうございます！

本マニュアルでは、あなたのお気に入りのシンセサイザーメーカー、Arturia のパワフルでユーザーフレンドリーな楽器、AstroLab 37 の機能と操作方法についてご紹介します。

できるだけお早めに製品登録をお願いいたします！

AstroLab 37 のご購入時にシリアルナンバーとアンロックコードをEメールでお知らせしています。これらの情報は、オンラインでの製品登録時に必要になります。

使用上のご注意

仕様変更について

本マニュアルに記載の各種情報は、本マニュアル制作の時点では正確なものですが、改良等のために仕様を予告なく変更することがあります。

重要！

本機は、アンプやヘッドフォン、スピーカーで使用された際に、聴覚障害を起こすほどの大音量に設定できる場合があります。そのような大音量や不快に感じられるほどの音量で本機を長時間使用しないでください。

難聴などの聴力低下や耳鳴りなどが生じた場合は、直ちに医師の診断を受けてください。

てんかんに関するご注意 - AstroLab 37 をご使用される前に必ずお読みください

日常生活の中で、特定の点滅や光のパターンにさらされると、てんかん発作や意識消失を起こしやすい人がいます。これは、てんかんの病歴がない人や、てんかん発作を起こしたことがない人でも起こりえます。ご自身やご家族の方で、点滅する光を浴びたときにてんかんの症状(発作や意識消失)を起こしたことがある方は、AstroLab 37 を使用する前に医師に相談してください。

本機の使用中に、以下のような症状が現れた場合は、直ちに 使用を中止し、医師に相談してください：めまい、目のかすみ、目や筋肉の痙攣、意識の喪失、方向感覚の喪失、不随意運動やけいれん。

本機の使用でのてんかん等の予防方法 (これが完全とは限りません)

- 画面に近づきすぎない。
- 画面から適切な距離を取る。
- 疲れているときや、睡眠が不十分のときは本機の使用を控える。
- 十分に明るい空間で本機を使用する。
- 1時間使用したら10～15分間の休憩を入れる。

安全にご使用いただくために

注意事項としては以下のものを含みますが、これらに限定されるものではありません：

1. 取扱説明書をよくお読みになり、理解してください。
2. 本機に表示されている指示に従ってください。
3. 本機のお手入れの際は、まず電源やUSB等全てのケーブルを外してください。また、清掃の際は、乾いた柔らかい布を使用してください。ガソリン、アルコール、アセトン、テレピン油その他有機溶剤は使用しないでください。液体クリーナー、スプレー洗剤、濡れ布巾なども使用しないでください。
4. 本機を浴室やキッチンシンク、水泳プールまたはそれらに準じた水の近くや多湿な場所で使用しないでください。
5. 本機を落下の危険性がある不安定な場所に設置しないでください。
6. 本機の上に重量物を置かないでください。また、本機の開口部や通気孔等を塞がないでください。これらは、過熱から本機を守るための空気の循環用のものです。また、本機を発熱体の近くや、風通しの悪い場所に設置しないでください。
7. 本機を開けたり異物を入れないでください。火災や感電の原因になることがあります。
8. いかなる液体も本機にこぼさないでください。
9. 修理の際は正規サービスセンターにご依頼ください。お客様ご自身で蓋やカバーを開けると保証の対象外となり、正規の手順に依らない組み立てや動作試験を行うと感電や別の故障の原因になる場合があります。
10. 雷の発生時には本機を使用しないでください。距離が離れていても感電の恐れがあります。
11. 本機を直射日光に当てないでください。本機の動作気温範囲は、15°C - 35°Cです。
12. ガス漏れが発生している場所付近で本機を使用しないでください。
13. Arturia は本製品の不適当な使用方法に起因する故障、破損、データ損失に責任を負いません。
14. 静電気放電がある環境下では、本機が誤動作することがあり、その回復のために手動によるリセット操作が必要になることがあります。

仕様変更について

本マニュアルに記載の各種情報は、本マニュアル制作の時点では正確なものです。改良等のために仕様を予告なく変更することがあります。

重要：本機は、アンプやヘッドフォン、スピーカーで使用された際に、聴覚障害を起こすほどの大音量に設定できる場合があります。

そのような大音量や不快に感じられるほどの音量で本機を長時間使用しないでください。難聴などの聴力低下や耳鳴りなどが生じた場合は、直ちに医師の診断を受けてください。

目次

1. ASTROLAB 37 へようこそ	4
1.1. AstroLab 37 とは?	4
1.1.1. AstroLab 37 のインストールメント	5
1.2. AstroLab 37 の使用例	6
1.2.1. ステージで	6
1.2.2. スタジオで	6
1.2.3. ステージとスタジオの両方で	7
1.3. 歴史的背景	7
1.3.1. PPG Realizer (1986)	7
1.3.2. Open Labs NeKo (2003)	8
1.3.3. Use Audio Plugiator (2008)	8
1.3.4. Arturia Origin (2009)	9
1.4. AstroLab 37 主な特長	9
2. ハードウェアの概要	11
2.1. Front Panel, Left Side - フロントパネル左側	11
2.2. ナビゲーション・エンコーダーの操作	12
2.3. Front Panel, Right Side - フロントパネル右側	13
2.4. リアパネル	14
2.4.1. 強制シャットダウン	14
2.4.2. 電源供給対応 USB	14
2.4.3. モノ・サミング	15
2.4.4. サステインペダル端子	15
2.5. キーボード	15
2.5.1. ボタン LED	15
3. 基本操作	16
3.1. Screen Navigation - 画面移動	16
3.1.1. プリセット画面	16
3.1.2. フィルター画面	16
3.1.3. ホーム画面	17
3.2. AstroLab 37 のプリセット	17
3.3. ホーム画面	18
3.4. プリセットのフィルタリング	19
3.4.1. Types - タイプ	19
3.4.2. Instruments - インストールメント	20
3.4.3. Artists - アーティスト	20
3.4.4. Liked Presets - お気に入りのプリセット	21
3.4.5. Sound Banks - サウンドバンク	21
3.4.6. プレイリスト	21
3.4.7. プレイリストの同期	22
3.5. フィルタリングのショートカット	23
3.6. プリセットの保存	23
3.6.1. クイックセーブ	23
3.7. Entering and Editing Text - テキストの入力と編集	24
3.8. Settings 画面	25
3.8.1. General	25
3.8.2. USB Drive	26
3.8.3. Wi-Fi	26
3.8.4. Bluetooth	26
3.8.5. MIDI In/Out	27
3.8.6. Controls	27
3.8.7. Pedals	28
3.8.8. Utility	28
4. PRESET ARCHITECTURE AND EDITING	29
4.1. Single Presets - シングルプリセット	29
4.2. Multi Presets	30
4.3. プリセットと発音数	32
4.4. AstroLab 37 と互換性のないインストールメント	34
5. MACROS AND INSTRUMENT EDITING	35
5.1. シングルプリセットのマクロ	35
5.2. マクロ機能のその他の動作	36

6. EFFECTS	37
6.1. エフェクトボタン.....	37
6.2. エフェクトルーティング.....	38
6.3. エフェクトの選択.....	38
6.4. Insert FX - インサート FX.....	39
6.4.1. エフェクトのエディット操作.....	39
6.5. インサートエフェクトのエディット.....	40
6.6. ディレイのエディット.....	40
6.7. リバープのエディット.....	41
6.7.1. エフェクトプリセット.....	41
6.8. テンゴ同期.....	41
6.9. マスター EQ.....	42
6.10. Supplement: Tables - エフェクトパラメーター.....	42
6.10.1. MultiFilter.....	42
6.10.2. Parametric EQ.....	43
6.10.3. Compressor.....	43
6.10.4. Distortion.....	43
6.10.5. Chorus.....	44
6.10.6. Flanger.....	44
6.10.7. Phaser.....	45
6.10.8. Stereo Pan.....	45
6.10.9. Analog Phaser.....	45
6.10.10. Wah.....	46
6.10.11. Twin Amp.....	46
6.10.12. Rotary Speaker.....	46
7. PLAYLISTS	47
7.1. プレイリストの階層構造.....	47
7.2. プレイリスト間の移動.....	47
7.3. プレイリストモードを解除する.....	48
7.4. プレイリストを新規作成する.....	48
7.5. プレイリスト内にソングを作成する.....	49
7.6. ソングにプリセットを入れる.....	50
7.7. 同一ソング内でのプリセットの移動.....	50
8. TEMPO AND ARPEGGIATOR.....	51
8.1. テンゴ設定.....	51
8.1.1. Tempo Sync - テンゴ同期.....	51
8.1.2. テンゴを設定する.....	51
8.1.3. Sync Source - 同期ソース.....	52
8.2. Arpeggiator.....	53
8.2.1. Hold.....	53
8.2.2. アルペジエーターの設定.....	53
8.3. Chord Mode.....	54
8.3.1. コードを設定する.....	54
8.3.2. コードモードの設定メニュー.....	55
8.4. Scale Mode.....	55
8.4.1. スケールを設定する.....	56
9. WIRELESS SETUP.....	57
9.1. Wi-Fi の設定.....	57
9.1.1. モバイル機器から Wi-Fi ネットワークに接続する.....	57
9.1.2. AstroLab 37 から Wi-Fi ネットワークに接続する.....	58
9.1.3. AstroLab 37 を Wi-Fi ホットスポットとして使用する.....	58
9.2. ブルートゥースのペアリング.....	59
9.2.1. ブルートゥース・オーディオストリーミング.....	59
10. ASTROLAB CONNECT.....	60
10.1. iOS 版 AstroLab Connect をインストールする.....	60
10.2. Android 版 AstroLab Connect をインストールする.....	61
10.3. AstroLab 37 を Wi-Fi ホットスポットに設定する.....	61
10.4. モバイル機器の設定をする.....	62
10.5. QR コードをスキャンする.....	63
11. ホーム画面.....	63
11.1. The Explore View - サーチ画面.....	65
11.1.1. プリセットを検索する.....	66

11.1.2. フィルタリングする	67
11.1.3. スリッドアイコン	68
11.2. フィルタリングしてプリセットを見つける	69
11.3. Types ページ	69
11.4. Instruments ページ	70
11.5. My Library ページ	71
11.5.1. Liked Presets	72
11.5.2. Songs: AstroLab 37 Demo	73
11.5.3. ソングを新規作成する	74
11.5.4. Adding Presets to a Song - ソングにプリセットを追加する	75
11.5.5. プレイリストを追加する	75
11.6. My Sound Banks	76
11.7. さらなる音色を発見する	76
11.7.1. AstroLab 37 にサウンドバンクをインストールする	77
11.7.2. サウンドストアでサウンドバンクを購入する	78
11.8. AstroLab Connect で音色をエディットする	79
11.9. ログアウト	80
11.10. Settings	80
11.10.1. Device Selection	81
11.10.2. Help	81
12. 仕様	82
12.1. 物理的仕様	82
12.2. 電気的仕様	82
12.3. AstroLab 37 MIDI インプリメンテーション	82
13. ASTROLAB 37 AND ANALOG LAB INTEGRATION	84
13.1. AstroLab 37 を Analog Lab に接続する	84
13.2. AstroLab Link	84
13.3. AstroLab 37 のプリセットを Analog Lab でエディット	85
13.3.1. Analog Lab のプリセットを AstroLab 37 で使用する	85
13.3.2. AstroLab 37 のプリセットを Analog Lab で使用する	86
13.3.3. Preset Compatibility and Limitations - 互換性と制限	86
13.3.4. AstroLab 37 で制限が発生する Analog Lab のプリセット	87
13.3.5. AstroLab 37 のライブラリーを管理	88
13.3.6. AstroLab 37 のプリセットを Analog Lab で閲覧する	88
13.3.7. プリセットを AstroLab 37 のライブラリーに追加する	89
13.3.8. AstroLab 37 のライブラリーからプリセットを削除する	89
13.3.9. AstroLab 37 のプレイリストにプリセットを追加する	89
13.3.10. AstroLab 37 にプレイリストをエクスポートする	90
13.3.11. AstroLab 37 のメモリ管理と CPU	90
13.3.12. AstroLab 37 のアップデート	91
14. 規制関連情報	93
14.1. アメリカ合衆国	93
14.2. カナダ	93
14.3. ヨーロッパ	94
14.4. オーストラリア	94
15. 付録	95

1. ASTROLAB 37 へようこそ

AstroLab 37 は、Arturia 史上最も変幻自在な楽器の1つです。ソフトウェア・インストゥルメントの柔軟性とハードウェアの信頼性を組み合わせるという夢が、ついに現実のものとなりました。



バーチャル・インストゥルメントの登場以来、キーボーディストやプロデューサー、シンセサイザー愛好家にとっての「聖杯」は、コンピュータを使わずにバーチャル・インストゥルメントを演奏でき、その多様性、サウンド、パワーを活用できるハードウェアシンセでした。AstroLab 37 は、まさにそれを実現しているのです。

1.1. AstroLab 37 とは？

一言で言えば、AstroLab 37 は [Analog Lab](#) のハードウェア版であり、Analog Lab には、世界で最も魅力的なビンテージ・シンセサイザーとキーボードのアンソロジーとして名高い [V Collection](#) の30種類以上のインストゥルメントから、膨大なプリセットが集められています。AstroLab 37 では、Analog Lab ができることはほとんどすべて可能です。

AstroLab 37 は、フレキシブルでパワフルなキーボード楽器として独立しており、2つのインストゥルメントをスプリットやレイヤーにしたり、エフェクトを追加したりすることができます。アナログシンセ、デジタルシンセ、サンプラー、クラシックオルガン、エレクトリックピアノがすべて存在し、可能な限り最高のパフォーマンスを保証するために最適化されたパワフルな DSP で動作します。Analog Lab と同様、AstroLab 37 の「大は小を兼ねる」的なテクノロジーに甘んじることなく、アナログシンセには True Analog Emulation (TAE®)、アコースティックピアノやエレクトリックピアノには物理モデルなど、サウンドのタイプに最適な音源方式を採用しています。

1.1.1. AstroLab 37 のインストールメント

AstroLab 37 の各音色は、次の Arturia インストールメントのものを使用しています：

- Acid V
- ARP 2600 V3
- Augmented BRASS
- Augmented MALLETS
- Augmented PIANO
- Augmented STRINGS
- Augmented VOICES
- Augmented WOODWINDS
- Augmented YANGTZE
- B-3 V2
- Buchla Easel V
- Clavinet V
- CMI V
- CS-80 V4
- CZ V
- DX7 V
- Emulator II V
- Farfisa V
- Jun-6 V
- Jup-8 V4
- Jup 8000 V
- Korg MS-20 V
- Matrix-12 V2
- Mini V3/V4
- MiniBrute V
- MiniFreak V
- Modular V3
- OP-Xa V
- Piano V3
- Pigments
- Prophet-5 V
- Prophet-VS V
- Pure LoFi
- Sampler
- SEM V2/V3
- Solina V2
- SQ80 V
- Stage-73 V2
- Synclavier V
- Synthi V
- Synthx V
- Vocoder V
- Vox Continental V2
- Wurli V2/V3

このように AstroLab 37 は、V Collection の無限のサウンドスケープを、ポータブルで多彩、使いやすい 1台のキーボードに具現化しました。そのため、スタジオやライブ機材の中核に、あるいはすでにお持ちのセットアップに強力な追加機材に最適です。


1.2. AstroLab 37 の使用例

AstroLab 37 は、さまざまなミュージシャンや使用例を想定して設計されています。ここでは、ライブパフォーマンスとレコーディングの両方におけるメリットの例をご紹介します。

1.2.1. ステージで

Mac や PC のラップトップは、ソフトウェア・インストゥルメントの黎明期に比べれば遥かに信頼できるようになりましたが、ライブはまだ難しい現場です。オーディオ・インターフェイスや周辺機器の電源のことを考慮する必要がありますし、ケーブルの本数も増えますし、その他細々とした心配事があります。

AstroLab 37 なら、付属の Analog Lab を使用して、スタジオのコンピュータから音色やエフェクト、コントローラーの割り当て、ライブ用のセットリストを快適に設定できます。そして、USB-C 経由ですべてを AstroLab 37 へ簡単に同期でき、コンピュータを自宅に置いておくことができます。



♪ V Collection のフルバージョンのインストゥルメントをお持ちの方は、それらを開いて、その中のパラメーターを Analog Lab のマクロに割り当てることができることをご存知かも知れません。このような設定もシームレスに AstroLab 37 の転送されます。

AstroLab 37 本体から音色を直接探したいときは、ユニークなナビゲーション・ホイール (ナビゲーション・エンコーダーで操作できる円形の高解像度ディスプレイ) とプリセットタイプ・ボタンで、素早く直感的に探すことができます。

1.2.2. スタジオで

AstroLab 37 は Analog Lab で行われていることをミラーリングできますので、レコーディング・セッションでは真にゼロレイテンシー・モニタリングができます。その仕組みはこうです。キーボードはオーバーダビング中に AstroLab 37 の出力をモニターします。その間、AstroLab 37 は Analog Lab の同一プリセットに MIDI を送信し、Analog Lab は DAW のバーチャル・インストゥルメント・トラックに常駐します。このようにして、プロジェクトのサンプル・バッファサイズを必要なだけ大きくしてセッションをスムーズに進行させながら、キーボードは DAW のプレイバックと完全に同期して音を聴き、演奏することができます。ただし、この使用例で発生しうる MIDI のレイテンシーは補正する必要があるかも知れません。

レイテンシーのないモニタリングは、ハードウェアシンセを使っても可能ですが、一度オーディオとして録音されたものを変更する場合は、再度 オーディオとして録音し直す必要があります。この場合、DAW に録音されるのは Analog Lab 用の MIDI データで、自由に編集したり移調したりできます。ハードウェアのゼロレイテンシーとソフトシンセの編集性というように両方のメリットを享受できます。

1.2.3. ステージとスタジオの両方で

AstroLab 37 のプリセット、エフェクト、各インストゥルメントの選択方法は、その場で思いついたサウンドを簡単に選べるようになっていました。例えば、ピンテージ・エレクトリックピアノにコーラスをかけたい、アナログ・ストリングマシンにフェイザーをかけたい、シンセリードにトリッピーなディレイをかけたいと思ったら、ほんの数秒で結果が出せます。

つまり、コンピュータ上でサウンドの準備やオリジナルプリセットを作成し、ハードウェア上で演奏やレコーディングを行い、コンピュータに戻って微調整や編集を行うといった音楽制作の3つの段階を、AstroLab 37 ならシームレスに移行できるのです。

1.3. 歴史的背景

AstroLab 37 は、AstroLab 61、AstroLab 88 に続き、ハードウェアに組み込まれたソフトウェア・インストゥルメントの可能性を真に実現しています。しかし、同じスピリットで作られたシンセは数多くあります。ここでは、私たち自身の機種を含む4つの例をご紹介します。

1.3.1. PPG Realizer (1986)



Wolfgang Palm PPG Realizer

ドイツのイノベーター、Wolfgang Palm (ヴォルフガング・パーム) の会社 PPG は、他のシンセサイザーのエミュレーションを実行するための最初のハードウェア・シンセサイザーであり、グラフィックとアナログモデリング、FM、ウェーブテーブル、サンプリングなどの複合的なシンセシス方式を備えていることをアピールしていました。中央の画面には「Mini」のようなシンセの画像が表示され、周囲のハードウェアノブで画面上のノブを操作するというものでした。ただし、65,000ドルというコストが、史上での成功を阻みました。

1.3.2. Open Labs NeKo (2003)



Open Labs NeKo 64

ソフトウェアのメリットを丸ごとステージに持ち込む方法のひとつは、単純にキーボード楽器をコンピュータの周りに作ることでした！ Neko はパワフルな Windows PC を核に、タッチスクリーン、ノブ、スライダ、ドラムパッド、シーケンサーコントロール、QWERTY キーボード、オーディオ・インターフェイスを内蔵していました。Karsyn というバーチャル・インストゥルメントをスタックしたりスプリットしたりする独自のホストソフトウェアも内蔵していました。その人気の絶頂期には、Moris Hayes (モリス・ヘイズ) がプリンスのバンドで演奏していました。

1.3.3. Use Audio Plugiator (2008)



Use Audio Plugiator

この手頃な価格 (500ドル) の DSP ボックスは、コンピュータの CPU 負荷を軽減しながら、本格的なキーボード・エミュレーションができるもので、プラグイン・インターフェイスはコンピュータの画面に表示され、オーディオ処理などの重い作業は Plugiator が行うというものでした。プラグインの DNA は、1990年代後半に Pulsar と Scope のコンピュータカードでカルト的な人気を博した Creamware 社から受け継いだものでした。アナログシンセ、トーンホイールオルガン、ウェブテーブルシンセなどのプラグインを内蔵していました。一度に1つのプラグインしか使用できませんでしたが、音質は最高でした。

1.3.4. Arturia Origin (2009)



Arturia Origin

デスクトップ版とキーボード版の2モデルを擁する Arturia Origin は、プラグインのようなテンプレートを使用して TAE[®] の技術をハードウェアに組み込んでいます。例えば、Mini オシレーターに Jupiter フィルターを組み合わせたり、その逆も可能でした。また、独自のシンセサイザーやバーチャル・モジュラーシンセシス用のエディットトラック、シーケンサー/アルペジエーター、その他多くの機能を備えています。キーボード版にはリボンコントローラーも装備していました。Origin は現在もミュージシャンに愛用され、人気の高い機種です。

1.4. AstroLab 37 主な特長

AstroLab 37 の主な特長は、以下の通りです：

- あらゆるタイプのシンセやキーボード (ピアノ、エレクトリックピアノ、オルガン、シンセ、ストリングマシン、サンプラーなど) の1,800種類以上の音色を内蔵。
- Analog Lab や Arturia Sound Store から2,000種類以上の音色を使用可能。
- 37鍵のスリムキー鍵盤 (ベロシティ、アフタータッチ対応) を搭載。
- 12種類のエフェクトから選択できる2系統のインサートエフェクトを内蔵。
- センドエフェクトとしてディレイとリバーブを内蔵。
- XLR コンボジャック入力を装備し、マイクやライン、楽器レベルのオーディオ信号を Vocoder V などの AstroLab 37 に内蔵のインストゥルメントで加工可能。
- 円形のナビゲーション・カラーディスプレイとナビゲーション・エンコーダーにより、プリセットやインストゥルメント、エフェクトを素早く容易にブラウジング可能。
- 8つの360度回転可能なエンコーダーノブを装備。
- 4つのマクロ (Brightness、Timbre、Time、Movement) で複数のパラメーターをワンアクションでコントロール可能。
- プリセット EQ と3つのトーンコントロール (Bass、Mid、Treble) を装備。
- プリセットの保存や呼び出し、サーチが簡単に行える Type ボタンを装備。
- 音色切替時に前の音色が途切れず、自然に音色が切り替わるスムーズ・プリセット・トランジション機能を採用。

- コードモードやスケール・クオンタイザーを内蔵したアルペジエーターを搭載。
- プリセットを好きな順序で編成でき、順序通りに切り替えることができるプレイリストとソング機能を内蔵。
- 電源供給可能な USB-A ポートを装備し、外部ストレージからのプレイリストのインポート (読み込み) や、USB ポートを装備した外部 MIDI コントローラーから AstroLab 37 を演奏可能。
- コンピュータやスマートフォン、タブレットを接続できる USB-C ポートを装備。
- 5ピン DIN コネクターの MIDI IN、OUT を装備。
- Wi-Fi、Bluetooth接続に対応。
- サステインペダル端子を装備。
- 6.3mm TRS ジャックのオーディオ出力 (バランス接続可能) とヘッドフォン端子を装備。

AstroLab 37 の製品登録

AstroLab 37 を製品登録することで、ファームウェアのアップデートやプリセットの新バンクなどをいち早く入手することができます。

手順は、AstroLab 37 の初回起動時に画面に表示される指示に従って操作するだけです。専用のモバイルアプリ (AstroLab Connect) を使用して登録することもできます。

また、Arturia ウェブサイトからも登録できます：

- お持ちの [My Arturia アカウント](#) でログインします。
- 「+ Register New Product」をクリックします。
- AstroLab 37 に同梱の登録カード、または AstroLab 37 本体底部のステッカーに記載されているシリアルナンバーとアンロックコードを入力します。
- 「Register」をクリックし、表示される指示に従って情報を入力します。

ほかにも方法があります。[AstroLab 37 インストールページ](#)にアクセスし、表示される指示に従って作業をします。

これで AstroLab 37 の製品登録が完了しました！

2. ハードウェアの概要

このチャプターでは、AstroLab 37 の物理的なハードウェアと I/O (入出力) についてご紹介し、それぞれが何をするのかを簡単にご説明します。これらをどのように使用して音楽的な結果を引き出すかは、次のチャプター以降でご紹介します。

2.1. Front Panel, Left Side - フロントパネル左側



フロントパネルのコントロール類の多くには、**Shift** ボタンを押すことで使用できるもう1つの機能があり、それも以下の表でご紹介します。

#	コントロール	主機能	シフト機能
1	ピッチベンドホイール	音程が上下に変化します (スプリング内蔵)。	—
2	モジュレーションホイール	音色に変調を加えます。	—
3	オクターブシフトボタン	オクターブを上下に変更します。	音程を半音単位で移調 (トランスポーズ) します。
4	マクロノブ (4個)	インストゥルメントの複数のパラメーターを4つのカテゴリー (左から Brightness、Timbre、Time、Movement) に分けてエディットします。	左から Volume、Bass、Mid、Treble EQ を調整します。
5	プリセットタイプボタン	プリセットをインストゥルメントのタイプ別に素早く選択 (プレイリストモードではソング内のプリセットを素早く選択) します。	—

2.2. ナビゲーション・エンコーダーの操作

フロントパネルの中央には、AstroLab 37 の外観上の特徴でもある円形の高解像度ディスプレイがあります。ここには、プリセット名とその画像からマクロノブでのエディット状況や各種設定に至るまで、さまざまな情報が表示されます。

AstroLab 37 のナビゲーション・エンコーダーは、ボタンとエンコーダーの両方として機能し、プリセットのブラウズやプリセット、インストゥルメント、エフェクトのエディットのほか、インストゥルメント内の各種設定のほとんども思い通りに行えます。


ナビゲーション・エンコーダーの周囲にある4つのボタンの主な機能は、下表の通りです。



#	コントロール	主機能	シフト機能
6	ディスプレイ	プリセットやインストゥルメント、エフェクトやブレイリスト、すべての設定に関する情報を表示します。	—
7	ナビゲーション・エンコーダー [p.16]	プリセットやインストゥルメント、エフェクトやブレイリスト、すべての設定メニュー等の選択に使用します。	プリセットのエディット、またはサブメニューや音色のサブカテゴリーを選択します。
8	バックボタン	1つ前の画面に戻ります。	ホーム画面に移動します。
9	前後移動ボタン	リスト内の1つ前や1つ先のプリセットを選択、または選択したパラメーターの値を1つずつ上下に変更します。	—
10	シフトボタン	押しながらノブ等を操作することで、そのノブにグレイで表示されている機能を使用します。	—

ナビゲーション・エンコーダーの操作は、次のようにシンプルです。

- **回す**：エンコーダーを回すことで、選択できるオプションをスクロールできます。
- **押す**：エンコーダーを押すとオプションを選択します。
- **Shift + 押す** または **長押し**：プレイリストや MIDI、サブカテゴリー、お気に入り関連の設定を行います。

 発音中のすべての音を停止させたいときは、Shift ボタンを押しながら上矢印 (↑) と下矢印 (↓) ボタンを押します。この操作により、発音中のすべてを音を停止させる一連の MIDI メッセージを送信します。

2.3. Front Panel, Right Side - フロントパネル右側



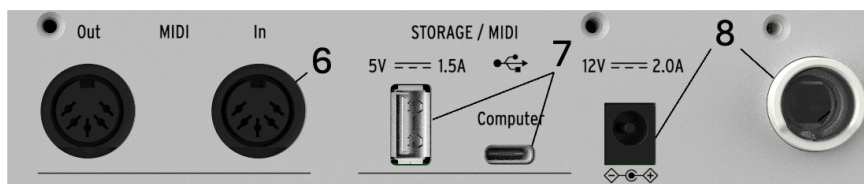
#	コントロール	主機能	シフト機能
11	アルペジエーターボタン	アルペジエーター [p.53]のオン/オフを切り替えます。	ホールドモードのオン/オフを切り替えます。
12	コードボタン	コードモード [p.54]のオン/オフを切り替えます。	スケールモード [p.55]のオン/オフを切り替えます。
13	プレイリストボタン	プレイリストモードのオン/オフを切り替えます。	選択しているプリセットを保存します。
14	FX A、FX B ノブ	選択しているインサートエフェクト [p.39]のドライ/ウェットを調整します。	エフェクトの強さを調整します (実際のパラメーターは選択したエフェクトタイプによって変わります)。
15	Delay、Reverb ノブ	センドエフェクト [p.37]のリターンレベルを調整します。	ディレイタイムとリバーブのディケイ、またはサイズを調整します。
16	FX ボタン	インサートエフェクトのオン/オフを切り替えます。	エフェクトをエディットします。
17	マスターボリューム	AstroLab 37 のメイン出力の音量を調整します。	—

2.4. リアパネル

AstroLab 37 は、次のようなプロ仕様の I/O を装備しています。



#	端子	機能
1	サステインペダル端子	サステインペダル (TS または TRS プラグ) を接続します。
2	オーディオ入力	マイク、ライン、楽器レベルのオーディオ信号に対応したバランス入力です。
3	入力ゲインノブ	オーディオ入力のゲインを調整します。
4	メイン出力	ラインレベルでオーディオ信号を出力します (バランス出力)。
5	ヘッドフォン端子	ステレオヘッドフォンを接続します (音量はマスターボリュームに連動します)。



#	端子	機能
6	MIDI In/Out	外部 MIDI 機器と5ピン MIDI ケーブルで接続します。
7	USB コネクタ	USB-A ポート：外部ストレージまたは USB/MIDI コントローラーと接続します。 USB-C ポート：コンピュータ、タブレット、またはスマートフォンと接続します。
8	電源スイッチとコネクタ	スイッチ：1秒押しで電源オフ、長押しで強制シャットダウン コネクタ：付属の電源アダプターを接続します。

2.4.1. 強制シャットダウン

電源スイッチを最低5秒以上長押しすると強制シャットダウンができます。

2.4.2. 電源供給対応 USB

USB-A ポートは5V、最大1.5Aの電源を供給できます。ポータブル・ハードディスクや SSD、USB バスパワー対応の MIDI コントローラーに十分な電源供給量です。

2.4.3. モノ・サミング

オーディオケーブル (楽器用ケーブル) がメイン出力の R チャンネルに接続していない場合、L チャンネル出力に R チャンネルの信号がミックスされてモノラル出力になります。

2.4.4. サステインペダル端子

サステインペダル端子は、TS または TRS プラグ仕様のサステインペダルを接続できます。

2.5. キーボード



最後のほうになりましたが重要なものを。AstroLab 37 のキーボードはスリムキー鍵盤で、ペロシティとチャンネルアフタータッチに対応しています。

2.5.1. ボタン LED

AstroLab 37 にはメインの動作モードが2つあり、1つは**プリセット**、もう1つは**プレイリスト**モードです。

タイプ (Type) ボタンが**ブルー**で点灯しているときは、プリセットモードに入っています。プレイリストモードに入ると、点灯色が**イエロー**に変わります。

また、LED の明るさで以下の状況を表示します。

- フル点灯：動作中かつ選択している状態です。
- 暗く点灯：動作中ですが選択はしていない状態です。

3. 基本操作

3.1. Screen Navigation - 画面移動



AstroLab 37 には3つのメイン画面があります。**Back** ボタンを繰り返し押すのが、各画面への移動で最も簡単な方法です。この操作で、プリセット画面 → フィルター/タイプ画面 → ホーム/設定画面 → プリセット画面.....というように移動します。

3.1.1. プリセット画面

AstroLab 37 の電源を入れると、前回シャットダウンしたときに選択していたプリセットがディスプレイに表示されます。

3.1.2. フィルター画面

フィルター画面では、すべてのプリセットがタイプ別にリスト表示されます。このカテゴライズは、フロントパネルにある10個のプリセットタイプ・ボタンでの分類方法とは少し異なります。

フィルター画面では、タイプ数はフロントパネルのそれよりも多く、次のようなタイプがあります：

- Bass
- Keys
- Lead
- Pad
- Piano
- Electric Piano
- Organ
- Strings
- Brass & Winds
- Drums
- Sequence
- Vocal
- Sound Effects

3.1.3. ホーム画面

AstroLab 37 を使用する上で、ほとんどの場合ホーム画面から作業することになります。この画面から重要な操作モードにアクセスし、さまざまな方法でプリセットを見つけることができます。

3.2. AstroLab 37 のプリセット

AstroLab 37 の膨大なサウンドに慣れるための最もわかりやすい方法は、プリセットタイプ・ボタンを使用することです。まず Type ボタンを押します (Strings など)。次にナビゲーション・エンコーダーを回すと、このグループ内のプリセットが表示されます。あるいは、前後移動ボタン (↑/↓) でプリセットを1つずつ順番に選択することもできます。

しかし、プリセットのサブカテゴリーをブラウズして、探しているプリセットに素早くたどり着くには、色々な方法があります。



♪ AstroLab 37 の Settings (設定) メニューにある *Click To Load* というパラメーターを使用すると、ナビゲーション・エンコーダーの動作が変化します。このパラメーターがオフの場合、ナビゲーション・エンコーダーを回すだけで次か前のプリセットがロードされます。オンの場合、ナビゲーション・エンコーダーを回すと次のプリセットが表示され、エンコーダーを押さないとロードされません。この機能は、演奏する前にプリセット名をプレビューしたいときに便利です。標準の動作 (エンコーダーを回すだけでプリセットがロードされる) に戻したいときは、*Click To Load* をオフにします。

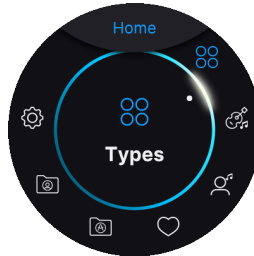


♪ 複雑なセッティングのプリセットの場合、ロードに少々時間がかかることがあります。

ナビゲーション・エンコーダーは、設定や [プリセットタイプ \[p.19\]](#) など、AstroLab 37 の他のアイテムのリストでも同じように、つまり、回すとハイライト表示になり、エンコーダーを押すとアクティブになる (選択される)、というように動作します。

3.3. ホーム画面

ホーム画面が AstroLab 37 のメインメニューです。ここからすべての操作モードにアクセスできます。**Shift** を押しながら **Back** ボタンを押すと表示されます。



ナビゲーション・エンコーダーを回すとアイテムがハイライト表示になり、エンコーダーを押すとそれを選択します。

時計回りの順で次のアイコンがあります：

- **Types**：プリセットタイプ [p.19] (Bass、Keys など) のリストを表示します。
- **Instruments**：AstroLab 37 内 (と Analog Lab) のインストゥルメント・モデルのリストを表示します。
- **Artists**：特定のアーティストが作成した、キュレーションした、あるいは特定のアーティストのトリビュートプリセットです。
- **Liked Presets**：ハートのアイコンで「お気に入り」に登録したプリセットです。
- **Sound Banks**：ユーザー作成、インポート、または Arturia サウンドストア (Analog Lab、AstroLab Connect アプリ、または Arturia ウェブサイト) から購入したプリセットのバンク内をブラウズできます。
- **Playlists**：作成したプレイリストを表示します。
- **Settings**：Wi-Fi やBluetooth、MIDI、ペダルなど、AstroLab 37 全体の設定 (グローバル設定) を行います。

3.4. プリセットのフィルタリング

ホーム画面では、**Settings** 以外のすべての選択項目はプリセットのフィルタリングに使用されます。つまり、検索条件を設定して絞り込み検索をすることができます。

3.4.1. Types - タイプ

タイプは楽器のカテゴリーで、上述のようにホーム画面でタイプを選択し、そのタイプに属しているプリセットを一覧できます。ナビゲーション・エンコーダーを使用してそのタイプ内のプリセットをブラウズし、選択することができます。




AstroLab 37 のプリセットタイプは、Analog Lab のそれと同じになっており、12時の位置から順に次のタイプがあります：

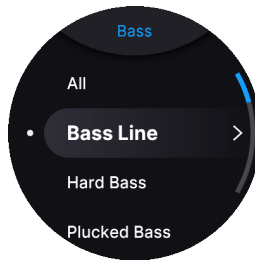
- Bass
- Keys
- Lead
- Pad
- Piano
- Electric Piano
- Organ
- Strings
- Brass & Winds
- Drums
- Sequence
- Vocal
- Sound Effects

3.4.1.1. サブタイプ

より完璧な絞り込みサーチがしやすいように、プリセットはさらにサブタイプに分類されています。サブタイプは、アコースティック、エレクトリック、シンセベースなど、さらに細分化された楽器をカバーしています。

エンコーダーを回してタイプを選択し、エンコーダーを押して選択せず、**長押し**してサブタイプを表示させます。

 このことは他のすべてのメニューにも当てはまります。例えば、CS-80 を選択し、ナビゲーション・エンコーダーを長押しすると、CS-80 のフィルター内でパッドのタイプのみを閲覧できます。



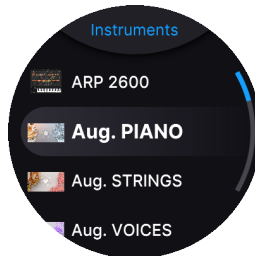
サブタイプは、リストをスクロールしてナビゲーション・エンコーダーを押して選択します。

ナビゲーション・エンコーダーを回すことで、**タイプ**と**サブタイプ**でフィルタリングしたすべてのプリセットをスクロールすることができます。

3.4.2. Instruments - インストゥルメント

AstroLab 37 のインストゥルメントの種類は、Analog Lab でのソフトウェア・インストゥルメントと同じになっています。1つのプリセットには1つまたは2つのインストゥルメントとエフェクトが入っています。**Single** (シングル) は、インストゥルメントを1つだけ使用したプリセットで、**Multi** (マルチ) は、2つのインストゥルメントを使用したプリセットです。

インストゥルメント別にプリセットをブラウズするには、まずホーム画面に移動します。そこからナビゲーション・エンコーダーを回してインストゥルメント・アイコンを選択し、インストゥルメントのメニューを開きます：



インストゥルメントを選択すると、そのインストゥルメントを使用したプリセットのリストが表示されます。


3.4.3. Artists - アーティスト

アーティストが作成したサウンドを再現したプリセットに絞り込むには、ホーム画面で **Artists** を選択します。

これらのプリセットは、有名な楽曲で使用されていた音色にできるだけ近く再現したトリビュート音色です。これにより、これらの楽曲をカバーしたり、名曲から別の曲の発想を得たりすることができます。

3.4.4. Liked Presets - お気に入りのプリセット

ハートのアイコンで「お気に入り」に登録したプリセットがここに表示されます。

 Analog Labでお気に入りに登録したプリセットは、AstroLab 37 上でもお気に入りプリセットとして表示されません。その逆も同様です。

3.4.5. Sound Banks - サウンドバンク

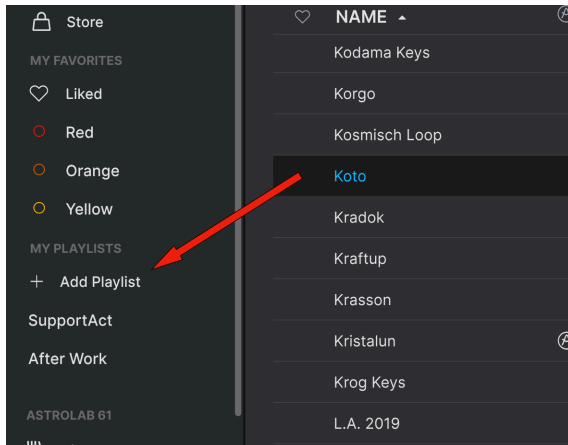
このメニューでは、ユーザー作成やインポートしたもの、または Arturia サウンドストアで購入したバンク内のプリセットを閲覧できます。このカテゴリーは、以下のサブタイプに細分化されています：

- **AstroLab Factory**：AstroLab 37 のファクトリープリセットです。
- **Sound Store Banks**：Arturia サウンドストア、または AstroLab Connect アプリからダウンロードしたバンクです。
- **User Banks**：ユーザープリセットが入っているバンクです。このバンクは、自由にリネームできます。

3.4.6. プレイリスト

プレイリストは、プリセットを整理するための強力なツールで、特にライブで演奏する曲 (セットリスト) をプレイリストに入れるときに便利です。

Analog Lab では、下図のようにサーチ結果のリストからプリセットをプレイリストにドラッグします：



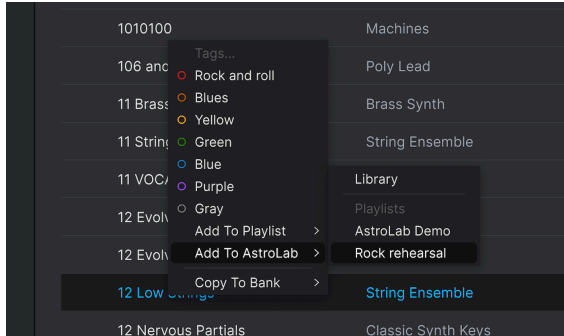
プレイリスト内は Song (ソング) で整理でき、各ソング内にプリセットを入れることができます。このデータを AstroLab 37 に送信すると、同じソングとプリセットが入ったプレイリストが表示されます。この機能の詳細につきましては、[CHAPTER 7 「PLAYLISTS \[p.47\]」](#)でご紹介します。

3.4.7. プレイリストの同期

Analog Lab の画面最上部に、**Link** ボタンがあります。AstroLab 37 が Analog Lab とリンクしている場合、プレイリストの作成と編集が、これ以上なくスムーズに行えるようになります。

AstroLab 37 でプレイリストの作成や編集を行うと、そのプレイリストが Analog Lab の **AstroLab → Library** に表示されます。

この状態で Analog Lab でプリセットをそのプレイリストに追加すると、そのプリセットを選択して AstroLab 37 のプレイリストに追加できます。そのプリセットを右クリックして **Add to AstroLab** を選択し、右のメニューからプレイリストを選択します。



i プレイリストのデータ内容は、プリセット自体のデータはなく、単なるプリセットのリストに過ぎません。そのため、Analog Lab からプレイリストをエクスポート（ファイル書き出し）しても、そこで使用しているプリセットで使用するサンプルなどはデータに含まれません。あるのは、単にプリセット名だけです。

プレイリストでの作業に関する詳細につきましては、[CHAPTER 7 「PLAYLISTS \[p.47\]」](#)をご覧ください。

3.4.7.1. USB メモリー

Import Playlists (プレイリストをインポートする) : AstroLab 37 のリアパネルにある **Storage/MIDI** と表示されている USB ポートに USB メモリーを接続することで、コンピュータ上の Analog Lab からプレイリストを簡単にインポートできます。

手順は次の通りです。Analog Lab でプレイリストを右クリックして **Export** を選択します。次に、エクスポートしたプレイリストのファイルを USB メモリーにコピーし、その USB メモリーを AstroLab 37 に接続してプレイリストをインポートします。

i USB メモリーは事前に FAT32 または exFAT (Windows/macOS 互換)、あるいは NTFS (Windows にのみ互換) 形式でフォーマットしておきましょう。

3.5. フィルタリングのショートカット

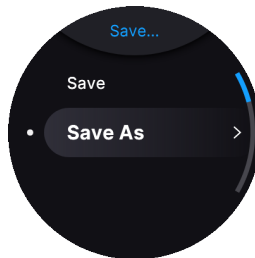
プリセットをカテゴリー別（タイプ、インストールメント、マイライブラリー、サウンドバンク）に閲覧するときに、その都度ホーム画面に戻る必要はありません。プリセットモードに入っている場合、ナビゲーション・エンコーダーを押すだけで現在選択しているカテゴリーでフィルタリングされたプリセットのリストが表示されます。

また、タイプ以外のカテゴリーでプリセットを閲覧している場合、プリセットタイプ・ボタンを長押しすることで、そのタイプがフィルタリングの条件に加わります。例えば、SEM V インストールメントを使用したすべてのプリセットを閲覧しているときに、タイプボタンの **Organ** を長押しすると、SEM V を使用し、かつオルガンのタグが付いているプリセットのみが表示されます。

3.6. プリセットの保存

プリセットに何らかの変更（例えばマクロや FX ノブを回したなど）を加え、それを保存するには、**Shift** を押しながら **Playlist** ボタンを押します。すると次のようなメニューが開きます：

- **Save**：元のプリセットに上書き保存します。
- **Save As**：元のプリセットに上書きせず、別の名前を付けて別のプリセットとして保存します。



3.6.1. クイックセーブ

タイプやサブタイプを変更せずにプリセットを保存するときは、**Shift** を押しながら "Saving Preset" が表示されるまで **Playlist** ボタンを長押しします。


3.7. Entering and Editing Text - テキストの入力と編集


プリセットやソング、プレイリスト、あるいはその他のアイテムの名前を編集するときには、ナビゲーション・エンコーダーでテキストエディターを開きます。



最後の文字にカーソルがいます。

1. 矢印ボタンを押すと別の文字にカーソルが移動します。
2. ナビゲーション・エンコーダーを回して、その位置に入れたい文字にスクロールします。
3. その文字までスクロールしましたら、矢印ボタンを押して別の文字へカーソルを動かします。
4. スペースを挿入するときは、ナビゲーション・エンコーダーを長押しします。
5. 一文字消去をするときは、ナビゲーション・エンコーダーを回します。スペースは A の前、' の後ろにあります。
6. **Shift** を押しながら **Save** を押すとテキストの編集が終わります。次に表示される画面から **Save** または **Save As** を選択して保存します。

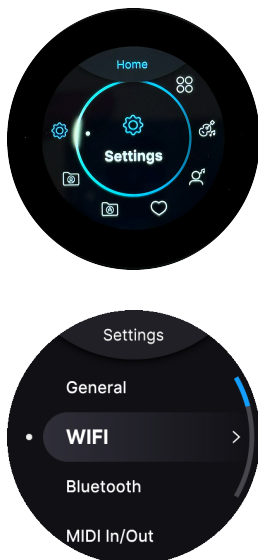
 **Shift** を押しながらナビゲーション・エンコーダーを回すと、A → a → 0 → . というように、文字カテゴリーをスキップでき、テキスト編集の時間を節約できます！

 テキスト編集時に **Back** を押すと、テキスト編集をキャンセルして前の画面に戻ります。

名前には、小文字、大文字の英数字のほか、カッコ、中括弧、ハイフン、アンダーバー、ピリオドも使用できます。ローカルネットワークに接続するための [WiFi パスワード \[p.57\]](#) を入力する場合は、以下の文字も使用できます：

~ ` ! @ # \$ % ^ & * () _ - + = [] { } \ / | ' " < > ? , .

3.8. Settings 画面



AstroLab 37 のほとんどの環境設定は Settings 画面に入っています。Shift を押しながら Back を押すとホーム画面に戻り、そこから Settings 画面に入れます。


3.8.1. General

- **Tempo (Internal)** : アルペジエーターとディレイは内部クロックに同期させることができます。テンポの範囲は 30-240 BPM です。
- **Tempo Sync** : 外部機器とのテンポ同期をするかどうか、同期する場合はテンポのソースを選択します。
- **Tempo Sync Source** :
 - **Internal** : AstroLab 37 本体のマスタークロックを使用します。
 - **USB** : USB ポートから受信した MIDI クロックに同期します。
 - **MIDI** : 5ピンの MIDI コネクターから受信した MIDI クロックに同期します。
 - **Auto** : クロックの受信を検知すると内部クロックに代わってそれに同期します。複数のクロック信号を検知したときは、優先順位が USB → MIDI になります。
- **Limiter** : お使いのオーディオ機器やあなたの耳の保護に役立つリミッターです。オーディオ信号の不要なピークを低減するのがリミッターの役割です。
 - **Limiter Threshold** : リミッターがオーディオ信号のピークを低減し始めるレベルを設定します。0dB の場合、不要なクリップを発生させずに最大ゲインとダイナミクスが得られます。-20dB の場合、リミッターがかなり低いレベルから作動します。
 - **Limiter Release** : リミッターをハードにかけたときのパンピング効果 (音量が不自然に上下する状態) を和らげたいときは、リリースタイムの調整が必要です。リリースタイムは、リミッターによってレベルが下がった信号が、元のレベルに戻るまでの時間で、1ms - 2,000ms の範囲で設定できます。

3.8.2. USB Drive

- **Import Playlists** : AstroLab 37 のリアパネルにある **Storage/MIDI** の USB ポートに USB メモリーを接続することで、コンピュータ上の Analog Lab で作成したプレイリストを簡単にインポートできます。

手順はとてもシンプルです。まず Analog Lab で、プレイリストを右クリックして **Export** を選択し、保存先に USB メモリーを指定します。エクスポート後、USB メモリーを AstroLab 37 に接続します。Settings > USB Drive > Import Playlists の順に進むと、エクスポートしたプレイリストが見つかります。

 USB メモリーは FAT32 または exFAT (Windows/macOS 両互換)、あるいは NTFS (Windows のみ互換) のいずれかにフォーマットしておく必要があります。

3.8.3. Wi-Fi


AstroLab 37 は Wi-Fi に対応しています。このページで Wi-Fi モードの設定や接続を行います。もちろん、MIDI や Analog Lab との通信は USB で機能しますが、AstroLab Connect と接続するだけでしたら、ワイアレスのほうが便利です。

Wi-Fi の使用方法などの詳細につきましては、[チャプター9「ワイアレスのセットアップ \[p.57\]」](#)でご紹介します。

3.8.4. Bluetooth

AstroLab 37 はブルートゥースにも対応しています。このページでは、ブルートゥースのオン/オフ切り替えと、デバイスとのペアリングが行えます。

ブルートゥースを使用することで、スマートフォンやタブレット、コンピュータなどのデバイスからオーディオ信号を AstroLab 37 で受信することができます。

 状況によっては、ブルートゥースの受信品質を向上させるために、Wi-Fi をオフにしたほうが良い場合があります。

ブルートゥースの使用方法などの詳細につきましては、[チャプター9「ワイアレスのセットアップ \[p.57\]」](#)でご紹介します。

3.8.5. MIDI In/Out

MIDI の入出力の設定は、ここで行えます。

- **Main MIDI Channel** : AstroLab 37 のキーボードからデータを送信するチャンネルです。この設定は変更できません。
- **Secondary MIDI Channel** : ここでの設定には2つの目的があります：
 - 接続した MIDI コントローラーからの MIDI 信号を受信するチャンネルを選択します (1-16、または All)。この場合、接続した MIDI コントローラーは、AstroLab 37 のセカンドキーボードとして認識されます。
 - ここでチャンネルを設定することで、そのチャンネル以外の MIDI 信号を無視することができます。これにより、接続した MIDI コントローラーからの MIDI CC (コントロールチェンジ) でのみ、AstroLab 37 をコントロールしたいときなどに便利です。

i **B-3 V オルガンに関する重要な注意** : B-3 V を使用したプリセットを使用する場合、B-3 V の上鍵盤は MIDI チャンネル1にのみ反応し、下鍵盤はチャンネル2にのみ、ペダル鍵盤はチャンネル3にのみ反応します (キーボードの一番低い1オクターブ分のみ演奏できます)。それ以外のチャンネルに設定していた場合、B-3 V からは音が出ませんのでご注意ください。

- **Keyboard Channel** : AstroLab 37 の MIDI 出力チャンネル、つまりキーボードからのノートなどデータを送信するチャンネルを設定します。受信する外部機器も同じチャンネルに設定してください。
- **MIDI Out Filter** : AstroLab 37 の MIDI アウトから送信する MIDI メッセージを設定します。
 - **Auto** : AstroLab 37 と Analog Lab がリンクしている場合、MIDI Out Filter は Keyboard Only になります。
 - **Keyboard Only** : AstroLab 37 のキーボードで弾いたノートデータのみが MIDI アウトから送信されます。
 - **All Notes** : キーボードでのリアルタイム演奏のほか、アルペジエーターやシーケンス、コード機能やスケールクオンタイズで生成された MIDI ノートデータも送信します。
- **Knob Send CC** : **On** の場合、AstroLab 37 のノブを操作すると、それに応じて MIDI CC (コントロールチェンジ) メッセージが送信されます。これによりノブの操作やパラメーターの動きを DAW に記録できます。この機能を使用しない場合は **Off** に設定することもできます。

3.8.6. Controls

- **Keyboard Velocity** : AstroLab 37 のキーボードのベロシティ感度を **Light**、**Medium**、**Heavy** から選択できます。演奏スタイルに最適なものを選択してください。
- **Aftertouch Sensitivity** : アフタータッチを動作させるベストな圧力は、人によってさまざまです。アフタータッチの感度を次の3つのタイプから選択できます。**Linear** は、キーボードを押し込む圧力に比例してアフタータッチの効果が深くなります。**Logarithmic** は、比較的軽い圧力でアフタータッチの効果がかかるログカーブです。**Exponential** は、他の2つに比較してより強い圧力が必要なエクスポネンシャルのカーブです。演奏スタイルに適したものをお選びください。

3.8.7. Pedals

- **Sustain Polarity** : ピアノ系音色の演奏に欠かせないほど便利なものが、サステインペダルです。ところが残念なことに、サステインペダルの極性にはグローバルスタンダードと言えるものはありません。お使いのサステインペダルが踏んでいないときにサステインがかかってしまうときには、このパラメーターで極性を変更する必要があります。

3.8.8. Utility

- **Click To Load** : このパラメーターがオフ (デフォルト) の場合、ナビゲーション・エンコーダーを回しただけで、プリセットをロードします。オンの場合は、エンコーダーを回すとプリセット名が切り替わり、エンコーダーを押すとそのプリセットがロードされます。プリセットを演奏する前にプレビューしたいときには、このパラメーターをオンにすると便利です。
- **Show CPU** : この機能をオンにすると、AstroLab 37 の CPU 負荷の状況がディスプレイの下部に表示されます。
- **Initialize all Settings** : AstroLab 37 を工場出荷時の状態に戻したいときに、この機能を選択します。各環境設定が工場出荷時の状態に戻り、スマートフォンとの接続も解除されますが、ユーザープリセットやプレイリストなどは消去されません。OK を選択すると処理を実行します。
- **Version** : AstroLab 37 のバージョン番号を表示します。

4. PRESET ARCHITECTURE AND EDITING

AstroLab 37 には、Analog Lab から厳選された1,800種類以上のプリセットが内蔵されています。オリジナルプリセットを作成したり、Arturia サウンドストアからプリセットやバンクをダウンロードすれば、その数はさらに増えます。

1つのプリセットには、次のものが含まれます：

- 1つまたは2つの**パート** [p.30]。各パートには1つの **Instrument** (インストゥルメント) を入れることができます。
- 2つの **Insert Effect** (インサートエフェクト)
- センドエフェクトの **Delay** (ディレイ)
- センドエフェクトの **Reverb** (リバーブ)
- マスター **EQ** の設定

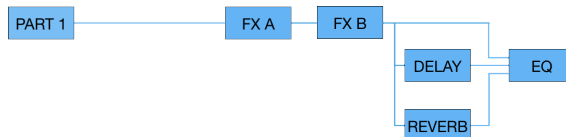
以下の各設定もプリセットごとに保存されます：

- スプリットポイント (プリセットが Multi (マルチ) の場合、または外部音源などをコントロールする場合)
- スケール
- コードモード
- アルペジエーター

ファクトリープリセットのライブラリーには、各インストゥルメントの定番サウンドや、主要な音楽ジャンルで欠かせないサウンド、2つのインストゥルメントを使用したレイヤーやスプリット音色のほか、シネマティックなサウンドや動きのあるサウンドスケープなど、さまざまな音色が入っています。

4.1. Single Presets - シングルプリセット

シングルプリセットにはインストゥルメントが1つだけ入っています。その信号の流れは下図のようになっています：



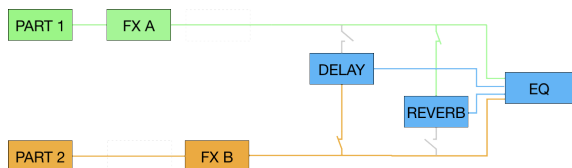
パート1にインストゥルメントが1つ入り、そこからの信号がシリーズ (直列) 接続のインサートエフェクト (FX-A と FX-B) に送られます。FX-B の出力はディレイとリバーブへ別々に送られます。FX-A と FX-B、ディレイ、リバーブの出力が3バンドのマスター EQ に送られ、最終出力の音量を AstroLab 37 のマスターボリューム・ノブで調整できます。



♪ シングルプリセットでも、インストゥルメントによってはそれ自体にマルチティンバー的な機能を持っているものもあります。

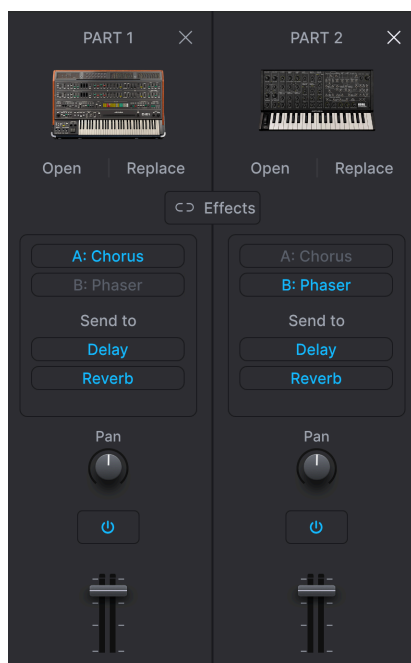
4.2. Multi Presets

マルチプリセットには2つのインストゥルメントが入り、スプリットやレイヤーにすることができます。下図はその信号の流れです：

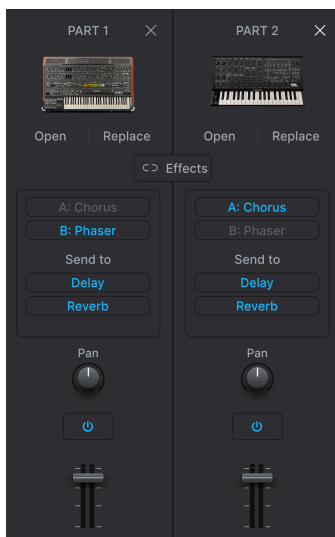


パート1と2それぞれにインストゥルメントが1つと、インサートエフェクトが1つずつ入ります。それぞれのインサートエフェクトの出力は、ディレイとリバーブへ別々に送られます。この4つの出力（2つのインサートエフェクト（ディレイ/リバーブの前段の信号）とディレイ、リバーブの出力）がミックスされてマスターEQへ送られます。

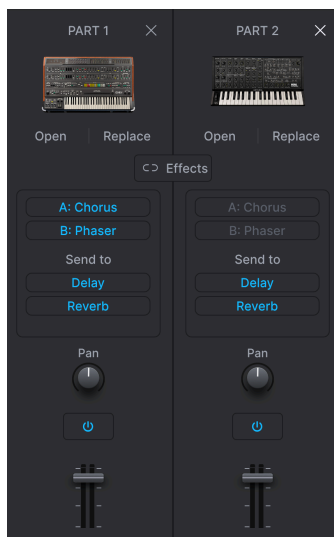
シングルプリセットとの大きな違いは、2つのインサートエフェクトを2つのパートで分け合っている点です。下図をご覧ください。信号のルーティングがわかりやすいかと思います。



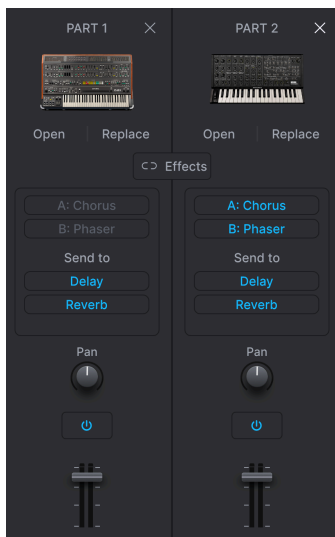
パート1はFX Aを、パート2はFX Bを使用



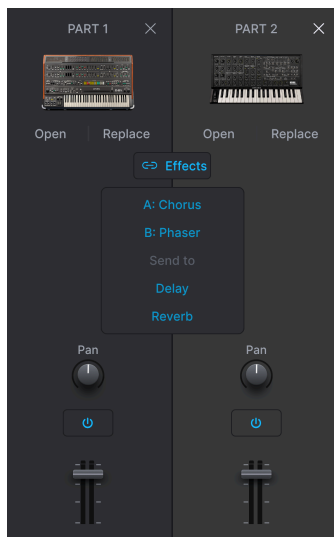
パート1はFX Bを、パート2はFX Aを使用



パート1はFX AとFX Bを使用し、パート2にはエフェクトがありません



パート1にはエフェクトがなく、パート2がFX AとFX Bを使用



パート1とパート2の両方でFX AとFX Bを共有(シリーズ接続)



♪ 本体サイズの都合上、マルチプリセットのエディットはAstroLab 37 本体から直接行うことはできません。回避策として、Analog Labでマルチプリセットをエディットし、それをAstroLab 37に保存することができます。

詳しくは、[CHAPTER 6 「エフェクト \[p.37\]」](#)をご覧ください。

ディレイとリバーブはセンドエフェクトですので、上記のような信号ルーティングの設定は、ディレイとリバーブには適用されません。つまり、インサートエフェクトの信号ルーティングに関係なく、ディレイとリバーブに送る信号レベルは、パートごとに自由に設定できます。

4.3. プリセットと発音数

AstroLab 37 は、どのインストゥルメントをどのような組み合わせで使用しても、音切れなどが発生しないように発音数を管理しています。DSP での処理規模の大きさはインストゥルメントによって変わりますので、発音数はインストゥルメントによって異なります。幸い、ほとんどのプリセットは Analog Lab のプリセットと完全互換しています。ただし、ごく一部のプリセットでは音の鳴り方が微妙に異なることがあったり、発音数が少なくなったりします。また、Analog Lab とは互換性のないプリセットもあります。

実際には、サステインペダルを踏んだまま両腕全体でキーボードを押さえない限りは、思い通りに演奏できます。

インストゥルメントごとの最大発音数は、次の通りです：

タイプ	インストゥルメント	最大発音数	備考
ポリシンセ	ARP 2600 V3	16	
	CMI V	16	使用するスロット数によって発音数が減少することがあります。
	CS-80 V4	8	
	CZ V	8	ユニゾンを使用すると発音数が減少することがあります。
	DX7 V	8	
	Emulator II V	8	
	Jun-6 V	8	ユニゾンを使用すると発音数が減少することがあります。
	Jup-8 V4	8	ユニゾンを使用すると発音数が減少することがあります。
	Jup-8000 V	8	使用状況に応じて最大発音数が動的に変化します。
	Matrix-12 V2	12	
	Mini V4	6	
	MiniBrute V	8	使用状況に応じて最大発音数が動的に変化します。
	MiniFreak V	6	パラフォニック使用時は12ボイス。
	Modular V3	8	
	OP-Xa V	8	ユニゾンを使用すると発音数が減少することがあります。
	Pigments *	8	使用状況に応じて最大発音数が動的に変化します。
	Prophet-5 V	16	
	Prophet-VS V	16	
	Pure LoFi	8	使用状況に応じて最大発音数が動的に変化します。
	Sampler / SFZ Engine	48	

タイプ	インストール メント	最大発 音数	備考
	SEM V3	8	使用状況に応じて最大発音数が動的に変化します。
	SQ80 V	8	
	Synclavier V	16	
	Synthx V	4	使用状況に応じて最大発音数が動的に変化します。
	Vocoder V	8	
モノシンセ	Acid V	1	
	Buchla Easel V	1	コンボリユーション・リバーブはバイパスになります。
	Korg MS-20 V	1	
	Synthi V	1	コンボリユーション・リバーブはバイパスになります。
ピアノ/オル ガン	B-3 V2	48	コンボリユーション・リバーブはバイパスになります。
	Clavinet V	48	コンボリユーション・リバーブはバイパスになります。
	Farfisa V	48	コンボリユーション・リバーブはバイパスになります。
	Piano V3	48	コンボリユーション・リバーブはバイパスになります。
	Solina V2	16	コンボリユーション・リバーブはバイパスになります。
	Stage-73 V2	48	コンボリユーション・リバーブはバイパスになります。
	Vox Continental V2	48	コンボリユーション・リバーブはバイパスになります。
	Wurli V2/V3	48	コンボリユーション・リバーブはバイパスになります。
サンプラー	Sampler	32	
Augmented	Aug. Brass *	8	コンボリユーション・リバーブはバイパスになり、使用状況に応じて最大発音数が動的に変化します。
	Aug. Grand Piano *	8	コンボリユーション・リバーブはバイパスになり、使用状況に応じて最大発音数が動的に変化します。
	Aug. Mallets *	8	コンボリユーション・リバーブはバイパスになり、使用状況に応じて最大発音数が動的に変化します。
	Aug. Strings *	8	コンボリユーション・リバーブはバイパスになり、使用状況に応じて最大発音数が動的に変化します。
	Aug. Voices *	8	コンボリユーション・リバーブはバイパスになり、使用状況に応じて最大発音数が動的に変化します。
	Aug. Woodwinds *	8	コンボリユーション・リバーブはバイパスになり、使用状況に応じて最大発音数が動的に変化します。
	Aug. Yangtze *	8	コンボリユーション・リバーブはバイパスになり、使用状況に応じて最大発音数が動的に変化します。



* = プリセットによっては音の鳴り方が微妙に異なったり、発音数が制限されることがあります。

これらのインストゥルメントには発音数を自動的に制限する機能があり、新たなボイスを弾いたときに、そのボイスを発音させると CPU の処理が追いつかなくなるおそれがある場合、そのボイスを発音させず、結果として3ボイスや4ボイスといった発音数に制限されることがあります。

キーボードを弾いても発音しないボイスがあるときは、Analog Lab で発音数 (Polyphony) の設定を低くして保存し、そのプリセットをエクスポートして AstroLab 37 にインポートすることをお勧めします。

上記の表の最大発音数は「パートごとの」発音数です。例えば、Mini V と Prophet-5 V を使用したマルチプリセットをロードした場合、16ボイスのポリフォニック演奏ができます。

ユニゾン機能があるインストゥルメントの場合、最大発音数はユニゾンボイスの設定値で割り算されません。また、単体でマルチティンバー的な機能があるインストゥルメントでも同じことが起こります。また、1ボイス (モノ) や48ボイスのインストゥルメントは、そのインストゥルメントに内蔵のリバーブはロードされません。これは、AstroLab 37 のリバーブを使用するために DSP リソースを節約するためです。

4.4. AstroLab 37 と互換性のないインストゥルメント

一部の旧バージョンのインストゥルメントや、比較的新しいインストゥルメントは、AstroLab 37 に対応していないものもあります。

タイプ	インストゥルメント
旧バージョン	Analog Lab 2/3/4 (マルチ)
	ARP 2600 V1/V2
	B-3 V1
	CS-80 V1/V2/V3
	Jup-8 V1/V2/V3
	Matrix-12 V1
	Mini V1/V2
	Modular V1/V2
	Piano V1/V2
	Prophet V1/V2/V3
	SEM V1
	Stage 73 V1
	Vox Continental V1
	新規
Mellotron V	

5. MACROS AND INSTRUMENT EDITING


マクロは、AstroLab 37 で最も強力な機能の1つで、プリセットの音色上の色々な要素をノブの操作1つでコントロールできる機能です。

マクロノブには Brightness、Timbre、Time、Movement の4つがあり、Analog Lab や V Collection のインストゥルメントをすでにお使いの方には馴染み深いものでしょう。そうでなくても心配ご無用です。AstroLab 37 の各プリセットは、マクロの4つのカテゴリに沿った音色変化が得られるようにプログラムされています。



この4つのマクロのカテゴリはテクニカルなものでも厳密に規定されたものでもありませんが、一般的には次のような機能があります：

- **Brightness**：シンセ・インストゥルメントのフィルターのカットオフや、オルガンの高音のドローバーなど、音色の高音成分に作用する機能が割り当てられています。
- **Timbre**：Brightness と同様、別の方法で音色を変化させる機能が割り当てられています。例えば、フィルターのレゾナンスやオシレーター波形の変更やブレンド、PWM やウェーブシェイピングの追加など、さまざまなものがあります。
- **Time**：アタックやディケイ、リリースなど、一般的にはエンベロープに関するパラメーターが割り当てられています。
- **Movement**：音色に「動き」をつけるようなモジュレーションやシーケンスが音色に加わります。

 マクロの各ノブからは、MIDI コンティニューアス・コントローラー (CC) メッセージが送信されます。MIDI CC のナンバーは、左のノブから順に74、71、76、77です。

5.1. シングルプリセットのマクロ


マクロノブに慣れるには、まずプリセットを1つ選択し、ノブを回して音色がどのように変化するかを聴いてみましょう。ノブの動きに応じてその値がディスプレイに表示されます。

5.2. マクロ機能のその他の動作

マルチプリセットでのマクロは、パート1/2のマクロのオフセットとして機能します。

- マルチプリセットで、あるマクロノブのポジションが最小値になっている状態で、パート1のマクロをエディットして最大値に設定します。マルチのマクロに戻ると、パート1のマクロはすでに最大値になっていますので、ノブを回してもそれ以上の値になりません。
- 上記と同じ例ですが、パート1のマクロノブのポジションが50%の場合、マルチのマクロで最小値と最大値にすると、パート1のマクロは50%から100%の間で変化し、パート2のマクロは変化しません。

これは、パラメーターの値が変化する範囲を微調整したい場合に便利ですが、一方のパートのマクロが反応しませんので混乱することもあります。

 マクロをよりディープに掘り下げ、マクロをエディットするには、Analog Labの画面右上にあるギアのアイコンをクリックし、Macro タブを選択します。Macro タブに入ると、マクロのコンセプトがより理解しやすくなります。

6. EFFECTS



AstroLab 37 は、2系統のアサイン可能なインサートエフェクト（エフェクトのことを FX とも呼びます）と、専用のディレイとリバーブを内蔵しています。

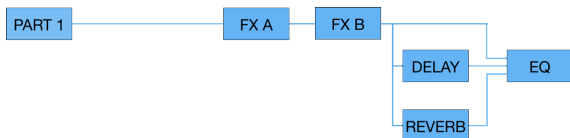
♪ 明確に区別するために、本マニュアルでは「FX」はインサートエフェクトを指し、「センドエフェクト」または「センド FX」はディレイとリバーブを指します。また、エフェクトセクションの構成は互換性のために Analog Lab と共通になっています。

6.1. エフェクトボタン

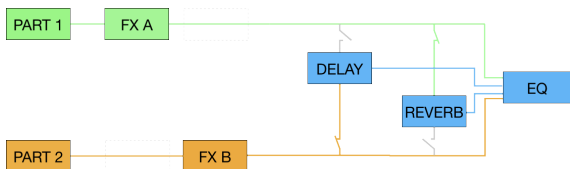
EFFECTS セクションの4つのノブの下にある **On/Off** ボタンで、各エフェクトのオン/オフ切り替えができます。


6.2. エフェクトルーティング

シングルプリセットでは、インサート FX はシリーズ (直列) 接続になります。下図のように、インサート FX の出力からパラレル接続でディレイとリバーブへ信号が別々に送られます：

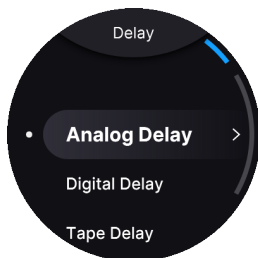


マルチプリセットでもルーティングは基本的には同じですが、FX A と FX B は2つのパートでシェアされます。2つのパートで1つずつ使用することもできますし、1つのパートで両方のエフェクトを独占することもできます。詳しくは、[CHAPTER 4 \[p.29\]](#)をご覧ください。



 本体サイズの都合上、マルチプリセットのエディットは AstroLab 37 本体から直接行うことはできません。回避策として、Analog Lab でマルチプリセットをエディットし、それを AstroLab 37 に保存することができます。

6.3. エフェクトの選択



インサート FX やディレイ、リバーブをエディットするには、エディットしたいエフェクトの **On/Off** ボタンを長押しします。

別の方法として、エディットしたいエフェクトの On/Off ボタンを押し、ナビゲーション・エンコーダーを押すという方法もあります。

6.4. Insert FX - インサート FX



AstroLab 37 のインサート FX は、お察しの通り、Analog Lab のそれと同じ構造になっています。繰り返しになりますが、これによるメリットは、Analog Lab でエフェクトのエディットが簡単にでき、その結果を AstroLab 37 へそのまま転送できる点にあります。もちろん、AstroLab 37 本体でもエフェクトパラメーターのエディットはできます。各エフェクトは、スタジオクラスのラック機器のオーディオオリディでありながら、コンパクトエフェクターのような使いやすさを備えています。

エディットしたいエフェクトの **On/Off** ボタンを長押しすると、インサート FX にアクセスできます。そこから、ナビゲーション・エンコーダーでエフェクトを選択できます。別の方法として、エディットしたいエフェクトの On/Off ボタンを押し、ナビゲーション・エンコーダーを押すという方法もあります。

エフェクトの種類は次の通りです：

- None (エフェクトなし)
- Multi Filter
- Parametric EQ
- Compressor
- Distortion
- Chorus
- Flanger
- Phaser
- Stereo Pan
- Analog Phaser
- Wah
- Twin Amp
- Rotary Speaker

各エフェクトのパラメーターなどの詳細につきましては、[Supplement: Tables - エフェクトパラメーター \[p.42\]](#)をご覧ください。

6.4.1. エフェクトのエディット操作

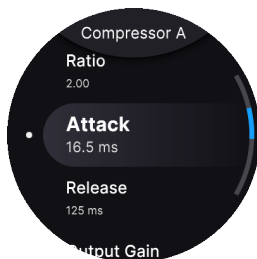
ナビゲーション・エンコーダーを押すと、インサート FX を選択できます。この状態でキーボードを弾いてエフェクトをオーディションできます。欲しいエフェクトを素早く簡単に絞り込む方法がこれです。

ナビゲーション・エンコーダーを押すとエフェクトのエディットモードに入ります。エディットしたいパラメーターにスクロールしてエンコーダーをもう一度押すと、そのパラメーターが選択されます。パラメーターの値は、エンコーダーを回すと変化します。そのパラメーターのエディットが終わりましたら、Back ボタンを押します。



エフェクトの **Dry/Wet** ノブがゼロになっていると、エフェクト音が出ませんので、ゼロ以上のポジションにしておきましょう。

6.5. インサートエフェクトのエディット



インサート FX のパラメーターをエディットするには、エディットしたいエフェクトの **On/Off** ボタンを長押しします。次にナビゲーション・エンコーダーを次のように操作します：

- エディットしたいパラメーターまでエンコーダーを回します。
- エンコーダーを押すと、そのパラメーターが選択されます。この時、エディットモードに入っていることを示す小さな上下の矢印が表示されます。
- エンコーダーを回してパラメーターの値を変更します。
- エンコーダーを押して変更を確定させます。
- **Back** ボタンを押してエディットを終え、前のメニューに戻ります。
- エディットした結果が気に入らないときは、Back ボタンを押します。これでエディットがアンドゥされます。

6.6. ディレイのエディット

AstroLab 37 の2つあるセンドエフェクトの1つであるディレイには、次の3つのタイプがあります：

- Analog：柔らかな音質のオールドスクールなディレイで、ピッチシフト効果を出したいときに適しています。
- Digital：クリーンでモダンなディレイです。ディレイ音が左右に飛び交うピンボンモードも可能です。
- Tape：揺らめくようなディレイ音のピンテージなテープエコーです。

ディレイには Dry/Wet ノブがなく、**Delay** ノブを回してディレイからのリターンレベルを調整します。そのため、ここで調整するレベルはディレイがかかった信号のレベルです。**Shift** を押しながら Delay ノブを回すと、ディレイタイムを調整できます。ディレイの各タイプでは、このチャプター後半のパラメーター表の通り、パラメーター構成が異なります。

6.7. リバースのエディット

AstroLab 37 に内蔵のリバースには、さまざまな音楽的用途に対応できる14種類のリバースタイプがあります：


- Digital Reverb
- Small Piano Room
- Soft Room
- Small Studio
- Large Studio
- Jazz Club
- Small Concert Hall
- Large Concert Hall
- Bright Room
- Bright Space
- Factory Hall
- Small Plate
- Large Plate
- Spring

リバースもディレイと同様センドエフェクトで、ディレイとパラレル（並列）で接続されています。**Shift** を押しながら Reverb ノブを回すと、リバースのディレイ（長さ）を調整できます。リバースのパラメーター構成は、タイプごとに異なります。

6.7.1. エフェクトプリセット

AstroLab 37 の各エフェクトにはプリセットがあります。音色プリセットと混同しないでください。エフェクトプリセットには、エフェクトセッティングを素早く選択でき、欲しいサウンドがすぐに得られるというメリットがあります。

エフェクトプリセットをオーディションするには、オーディションしたいエフェクトの On/Off ボタンを長押しし、ナビゲーション・エンコーダーを回してエフェクトをブラウズします。

 ボタンを押すだけでエフェクトプリセット・メニューにアクセスできますので、思いがけないエフェクトを追加してライブを盛り上げることもできます。パネル右上の EFFECTS ノブを回すと、エフェクト音の大きさを調整できます。

6.8. テンポ同期

モジュレーション系エフェクトなど一部のタイムベースのエフェクトでは、*Sync* パラメーターを使用して AstroLab 37 のテンポに同期させることができます。テンポ同期につきましては、[Settings チャプター \[p.51\]](#)をご覧ください。

6.9. マスター EQ

AstroLab 37 のオーディオ信号の最終段階には、3バンドのマスター EQ があります (マスター EQ はインサート FX のイコライザーとは別です)。ライブ会場の音響特性に合わせて音質を補正したり、ベースに影響しないように音質を調整したり、あるいはベーシストに「成り切ったり」など、さまざまな音質調整に最適です。Shift を押しながら以下のマクロノブを回すと、各バンドの音質を調整できます：


- **Timbre**：ベース
- **Time**：ミッド
- **Movement**：トレブル

各バンドともブースト/カット量は ±10dB です。

6.10. Supplement: Tables - エフェクトパラメーター

以下の表は、AstroLab 37 の各エフェクトと、ディレイ、リバーブの全パラメーターとその機能をまとめたものです。

ペダルスタイルのインサート FX を使いこなすベストな方法は、単純に実験して遊んでみるのですが、参考のために、各エフェクトの全パラメーターを表形式でご紹介します。

 各エフェクトで **Intensity** [p.13] ノブを回したときに変化するパラメーターは、以下の表内の太字で表示しています。エフェクトの深さ (インテンシティ) を変更したいときは、Shift を押しながらそのエフェクトの FX ノブを回します。

 各エフェクトのメニューには、**Enable On/Off** スイッチが先頭にあります。

6.10.1. MultiFilter

シンセのマルチモードフィルターをペダルエフェクター・スタイルにしたものです。

パラメーター	内容
Mode	フィルタータイプを選択します：ローパス、ハイパス、バンドパス、コムフィルター (フィードフォワード、フィードバック)。
Cutoff	フィルターのカットオフまたはセンター周波数を設定します。
Q	カットオフ/センター周波数付近の帯域を強調する量を調整します。
Slope	フィルターの急峻度を選択します (LP/BP/HP のみ)
Dry/Wet	入力音とエフェクト音のバランスを調整します。

6.10.2. Parametric EQ

ミッド (ピークフィルター) とハイシェルフ (HS)、ローシェルフ (LS) の3バンドパラメトリック EQ です。

パラメーター	内容
Gain (x3)	各バンドのブースト/カット量を調整します。
Frequency (x3)	各バンドの周波数を調整します。
Q	ミッドバンドの帯域幅を調整します。
Scale	全バンドのゲインを同時に調整します。

6.10.3. Compressor

コンプレッサーは、音量レベルを一定に保つために使われるのが一般的ですが、他にもさまざまな使い方があります。例えば、音のアタック部分が後段のエフェクトの入力段で歪まないようにすることもできます。また、通常はすぐに減衰してしまう音を、すぐに減衰させずに長く伸ばすこともできます。

パラメーター	内容
Threshold	コンプレッサーが作動し始めるレベルを設定します。
Ratio	スレッシュホールドレベルを超えた入力にコンプレッション (圧縮) をかける量を設定します。
Attack	入力音がスレッシュホールドレベルに達してから、コンプレッションがかかるまでの時間を調整します。
Release	コンプレッションが開放されるまでの時間を設定します。
Output Gain	コンプレッションにより低下する全体音量を補正します。
Make Up	出力レベルを自動調節します。
Dry/Wet	入力音とエフェクト音のバランスを調整します。

6.10.4. Distortion

アナログ・オーバードライブやローファイなデジタルのビットクラッシャーなど、さまざまなタイプのディストーションを内蔵しています。

パラメーター	内容
Type	タイプを選択します (Overdrive、BitCrusher、Overdrive Legacy、Wavefolder、Waveshaper)。
Drive	ディストーションのプリゲインを設定します。
Level	ディストーションの出力レベルを調整します。
WF Type	ウェーブフォルディングのシェイプを調整します (Wavefolder モードのみ)。
Bitdepth	ビット解像度を低下させます (BitCrusher のみ)。
Downsample	サンプルレートを下げます (BitCrusher のみ)。
Dry/Wet	入力音とエフェクト音のバランスを調整します。

6.10.5. Chorus

どんな音色にも欠かせないステレオコーラスです。

パラメーター	内容
LFO Freq	コーラスのうねりの周期を調整します。
Depth	うねりの深さを調整します。
Feedback	コーラス音を再入力 (フィードバック) して、コーラス音にクセをつけます。
Delay	コーラスのディレイタイムを設定します。
Voices	コーラスで使用するディレイライン数を選択します。各ラインともスタート位相が異なります。
Stereo	コーラスの出力をステレオにするか、モノにするかを切り替えます。
Shape	うねり (LFO) の波形をサイン波または三角波に切り替えます。
Dry/Wet	入力音とエフェクト音のバランスを調整します。

6.10.6. Flanger

フランジャーは、入力音を2つに分岐して片方に短いディレイをかけ、そのディレイタイムをゆっくりと変化させます。2つの信号をミックスするとジェットエンジンのようなスウィープ音になるというエフェクトです。

パラメーター	内容
LFO Freq	フランジャーのうねりの周期を調整します。
Depth	うねりの深さを設定します。
Feedback	フランジャー音を再入力 (フィードバック) させてハーシュ感のあるサウンドにします。フィードバックによる暴走 (発振) 防止のため、最大値は 0.990 です。
Stereo	フランジャーの出力をステレオにするか、モノにするかを切り替えます。
Phase Invert	フランジャー音の位相を反転させます。
HP Filter	入力音の低域を調整します。
LP Filter	入力音の高域を調整します。
Dry/Wet	入力音とエフェクト音のバランスを調整します。

6.10.7. Phaser

フェイザーは入力音を2つに分岐し、片方にオールパスフィルターをかけて位相をゆっくりと変化させ、元の信号にミックスします。すると音のさまざまな帯域で位相の打ち消し合いが起こり、シュワシュワした音色になるエフェクトです。

パラメーター	内容
Frequency	フェイザーの中心帯域を設定します。
N Poles	フィルターの急峻度を設定します。
Feedback	フィルターのレゾナンスを調整します。
Stereo	モノからステレオまで、連続的に変化します。
Sync	オンの場合、Rate の設定値がテンポに対する拍数になります。
Rate	フェイザーのうねりの周期を設定します。
LFO Amount	うねりの深さを設定します。
Dry/Wet	入力音とエフェクト音のバランスを調整します。

6.10.8. Stereo Pan

音像が左右に移動するシンプルなエフェクトです。

パラメーター	内容
Sync	オンの場合、音像が移動する周期がテンポに対する拍数になります。
Rate	音像が移動する周期を設定します。
Shape	音像が移動する波形 (徐々に移動するか、急激に移動するか) を選択します。
LP Mono	オンの場合、低音域は移動しなくなります。
Dry/Wet	入力音とエフェクト音のバランスを調整します。

6.10.9. Analog Phaser

Arturia Phaser BI-TRON のミニバージョンです。

パラメーター	内容
Rate	フェイザーのうねりの周期を設定します。
N Poles	フェイザーのフィルターの急峻度を設定します。
Feedback	フェイザーのレゾナンスを調整します。
Depth	うねりの深さを調整します。
Stereo	フェイザーの出力をモノからステレオに切り替えます。
Sync	オンの場合、うねりの周期がテンポに対する拍数になります。
Dry/Wet	入力音とエフェクト音のバランスを調整します。

6.10.10. Wah

ワウワウは、60年代中期に出回り始めた最初期のエフェクターの1つです。名前の通りの効果が得られません。

パラメーター	内容
Manual	エフェクトをかける帯域を設定します。設定値が低いほどワンドレンジになります。
Sensitivity	オートワウのように、エフェクトが作動するレベルを設定します。設定値が0の場合、フィルターの周波数はManualで設定します。
Rate	ワウエフェクトの周期を設定します。
Depth	ワウの深さを設定します。
Dry/Wet	入力音とエフェクト音のバランスを調整します。

6.10.11. Twin Amp

コンボタイプの定番ギターアンプのモデリングです。

パラメーター	内容
Drive	入力ゲインを調整します。設定値が高いほど歪みが深くなります。
Bass	低音を調整します。
Treble	高音を調整します。
On Axis	スピーカーの前に設置したマイクのポジションを調整することで、全体的な音質が変化します。
Bright	高域を強調します。
Output Gain	Driveで大きくなった全体音量を補正します。
Dry/Wet	入力音とエフェクト音のバランスを調整します。 signal

6.10.12. Rotary Speaker

どんな楽器でもレズリースピーカーを通せば予想外の面白い音になります。音作りに煮詰まってしまうしたら、ぜひお試しください！

パラメーター	内容
Model	レズリーのモデルを選択します。
Stereo	ステレオイメージの広がりを連続的に調整します。
Balance	キャビネット内のベーススピーカーとトレブルドライバーのバランスを調整します。
Fast	ローターの回転スピードが速くなります。
Brake	ロータリスピーカーが停止した状態をシミュレートします。
Dry/Wet	入力音とエフェクト音のバランスを調整します。

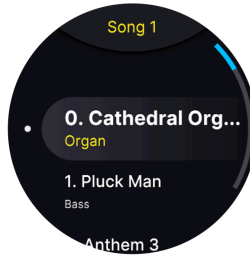
7. PLAYLISTS

プレイリストは、ソングごとにグルーピングできるプリセットのリストです。ライブで演奏する曲目（セットリスト）を作るのに最適な機能です。

プレイリストを作成するのは、自宅スタジオかリハーサルスタジオで行うのが一般的でしょう。プレイリストがあれば、ライブの進行に合わせてクリックするだけでソングとプリセットを進めていくことができます。

7.1. プレイリストの階層構造

AstroLab 37 のプレイリストは、ソング単位で分割され、1つのソングに最大128個のプリセットを入れることができます。

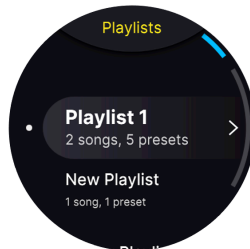


階層構造のトップがプレイリストだとお考えください。1本のライブが1つのプレイリストということになります。例えば、カバーバンドのライブで1つのプレイリスト、別のソロで行うエレクトロニカ・ユニットで別のプレイリスト、礼拝で演奏する楽曲を集めて別のプレイリスト、レコーディング用で別のプレイリストというように、目的別などでプレイリストを作成できます。2番目の階層であるソングは、セットリストの楽曲の1つ1つということになります。1つ1つの楽曲で使用するのが、3番目の階層であるプリセットです。

別の例で言えば、プレイリストと一緒に演奏するバンドやアーティストと捉えることもできます。各プレイリストにはいくつものソングがあり、一般的には演奏する順番に並べます。各ソングにはその曲で使用するすべてのプリセットが入ります。プレイリストを作成することで、その時々の演奏に必要な音色を AstroLab 37 全体から探す必要がなくなります。

7.2. プレイリスト間の移動

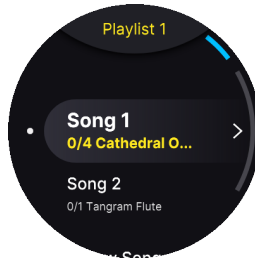
プレイリストモードに入るには、**Playlist** ボタンを押し、次に **Back** ボタンを2回押します。するとディスプレイのトップに **Playlists** と表示されます。





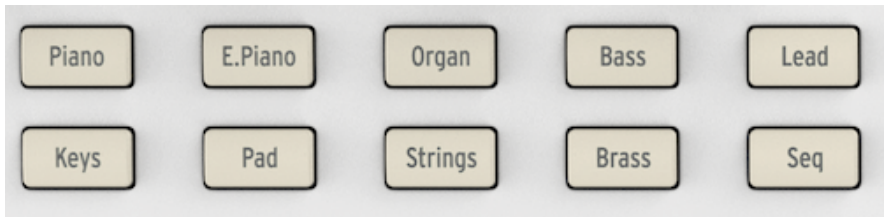
♪ プレイリストを作成してなくても、デモ・プレイリストが入っています。

プレイリストモードに入ると、ナビゲーション・エンコーダーでプレイリストをスクロールして選択できます。すると、**ソングモード**に入ります。



ソングモードでは、ソングを選択してその中の**プリセット**のリストをチェックできます。ソング内のプリセットは以下の手順で順番に切り替えることができます：

- プリセットは、上下の矢印ボタン (↑/↓) またはナビゲーション・エンコーダーで切り替えられます。
- ソング内の最初から10個目までのプリセットは、プリセットタイプ・ボタンの 0-9 で選択することもできます。



7.3. プレイリストモードを解除する

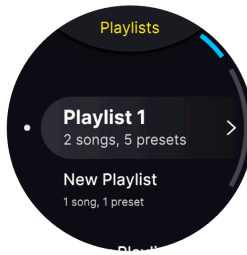
プレイリストモードに入っている状態で **Playlist** ボタンを押すと、通常のプリセットモードに戻ります。この時、プレイリストモードに入る直前に選択していたプリセットがロードされます。

次回プレイリストモードに入ると、前回の最後に使用していたプレイリスト、ソング、プリセットがロードされます。


7.4. プレイリストを新規作成する

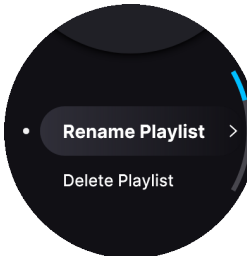
プレイリストの作成で最も便利な方法は、Analog Lab を使用することです。手近なところに Analog Lab がない場合は、直接 AstroLab 37 本体で、またはモバイルアプリの AstroLab Connect で作成できます。

まず、ホーム画面からプレイリストページに移動します。または **Playlist** ボタンを押し、**Back** ボタンを2回押す方法もあります。プレイリストが開きましたら、**Back** ボタンを押します：

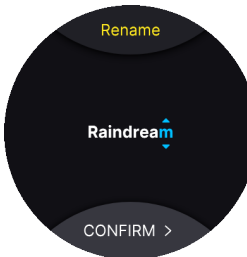


"+" **New Playlist** が表示されるまでナビゲーション・エンコーダーを時計回りに回し、これを選択します。すると、空のプレイリストが新規作成されます。**ナビゲーション・エンコーダーを長押し**または**Shift を押しながら押すと**、そのプレイリストに名前をつけることができます。

 このページで、プレイリストを削除することもできます。



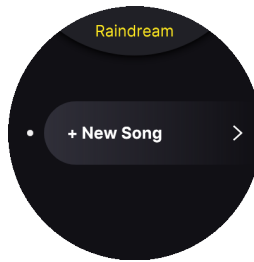
画面に表示される**テキストエディター** [p.24]でプレイリストにつける名前を入力します。入力を確認 (CONFIRM をクリック) すると "Success" と表示されます。



7.5. プレイリスト内にソングを作成する

プレイリストモードに入るには、**ホーム**画面から **Playlist** を選択します。または、**Playlist** ボタンを押し、次に **Back** ボタンを2回押します。すると、画面のトップに **Playlists** と表示されます。

New Playlist を選択すると、画面に Playlist 1 (2や3の場合もあります) が表示されます。Playlist 1 をクリックすると **New Song** に移動します。



ナビゲーション・エンコーダーを押すとソングを新規作成します。ナビゲーション・エンコーダーを長押しまたは **Shift** を押しながら押すと、ソングに名前をつけるページが開きます。

Rename Song (ソングに名前をつける) ページでは、**Move Song** (ソングの移動) や **Delete Song** (ソングの削除) のコマンドも選択できます。

7.6. ソングにプリセットを入れる

新規作成した直後のソングをクリックすると、まだプリセットがまったく入っていない状態ですので、**No Presets** と表示されます。では、プリセットを入れましょう。

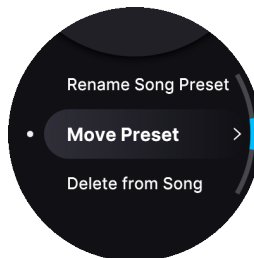
ソングにプリセットを入れるには、まず **Shift** を押しながら **Back** を押します。するとホーム画面に移動し、ここでプリセットを検索できます。あるいは、**Back** ボタンを3回押す方法もあります。

ソングに入れたいプリセットが見つかりましたら、**Shift** を押しながらナビゲーション・エンコーダーを押す、またはナビゲーション・エンコーダーを長押しします。次に、エンコーダーを回して **Add to Playlist** を選択します。

エンコーダーを押すと**プレイリスト**ページに移動します。プレイリストを選択してエンコーダーを押します。するとそのプレイリストでソングにプリセットを追加できるようになります。ここからソングにプリセットを追加していくことができます。

7.7. 同一ソング内でのプリセットの移動

ソングモードで、あるソングに属しているプリセットを演奏しているとき、そのソングからプリセットを簡単に削除できます。ナビゲーション・エンコーダーを長押し、または **Shift** を押しただけで削除できます。



Move Preset を選択すると、そのプリセットを別のソングへ移動でき、**Delete from Song** を選択すると、現在使用しているソングからそのプリセットを削除できます。

8. TEMPO AND ARPEGGIATOR

AstroLab 37 は、フル装備のアルペジエーターを搭載しています。このチャプターではアルペジエーターの各機能と、AstroLab 37 全体のテンポとテンポ動機に関する設定についてご紹介します。

8.1. テンポ設定



テンポは、アルペジエーターと Sync オプションがあるエフェクト [p.37]に影響します。

8.1.1. Tempo Sync - テンポ同期

AstroLab 37 (と Analog Lab) の多くのインストゥルメントは、独自の店舗生成クロックを内蔵していますので、AstroLab 37 では、各プリセットで設定されているテンポをそのまま使用するか、マスターテンポ・ソースを使用するかを選択できます。

Back ボタンを押してホーム画面に移動し、Settings を押して General を選択すると Tempo Sync 画面が表示されます。

- *On*: AstroLab 37 のグローバルのマスタークロックか、[Sync Source \[p.52\]](#) の設定によっては外部クロックを使用します。
- *Off*: プリセットに設定されているテンポを使用します。

Shift を押しながら Back を押してホーム画面に戻り、Settings を押して General に進みます。そこから少し下へスクロールするとテンポと同期設定を変更できます。

8.1.2. テンポを設定する



Back ボタンを押してホーム画面へ移動します。Settings を押して General に進むと Tempo Sync 画面が開きます。Tempo (Internal) を選択してナビゲーション・エンコーダーを回すとマスターテンポを設定できます。

テンポは、30-240 BPM の範囲で設定できます。

8.1.3. Sync Source - 同期ソース

AstroLab 37 は、内部クロックをマスターテンポに使用したり、外部ソースに同期することもできます。

Shift を押しながら **Back** を押してホーム画面に戻り、**Settings** → **General** → **Tempo Sync Source** の順に進みます。

同期ソースには以下のオプションがあります：

- *Internal*：AstroLab 37 の内部クロックをテンポに使用します。
- *USB*：USB ポートから受信した MIDI クロックに同期します。
- *MIDI*：5ピン MIDI コネクターから受信した MIDI クロックに同期します。
- *Auto*：AstroLab 37 がソースを自動で選択します (以下参照)。

8.1.3.1. Auto Sync

上記の Sync Source で *Auto* を選択した場合、AstroLab 37 は以下のように同期ソースを決定します。

- 外部クロック信号を検出していないときは、内部クロックをテンポに使用します。
- いずれかの接続端子で外部クロックを検出すると、そのクロックに同期します。
- 複数のクロック信号を検出したときは、5ピン MIDI 端子よりも USB ポートからのクロックを選択します。
- MIDI スタートメッセージを検出したときは、外部クロックに同期します。

8.2. Arpeggiator



AstroLab 37 は、クラシックなシンセスタイルのアルペジエーターを搭載しています。**Arp** ボタンを押すとオンになります。次に、キーボードでコードを押さえるとアルペジエーターの設定に従ってその構成音によるアルペジオ演奏が始まります。

8.2.1. Hold

Shift を押しながら **Arp** を押すとホールドモードになります。この場合、キーボードから手を放してもアルペジオ演奏がそのまま続きます。ホールド機能は、サステインペダルを踏んだときにもオンになります。

8.2.2. アルペジエーターの設定

Arp ボタンを長押しすると設定メニューに入ります。



次のようなオプションがあります：

- *Arpeggio*：アルペジエーターのオン/オフを切り替えます (Arp ボタンと同じ機能です)。
- *Rate*：アルペジオのスピードを設定します。
- *Hold*：ホールド機能のオン/オフを切り替えます (Shift+Arp ボタン操作と同じ機能です)。
- *Sync*：テンポ同期がオンの場合、アルペジエーターは MIDI クロックまたは内部クロックに同期します。この時、*Rate* パラメーターでテンポに対する拍数を選択できます。同期オフの場合は、*Rate* でテンポを設定します。
 - *All Sync*：ストレート、3連符、付点音符の各拍数のすべてから選択できます。
 - *Sync Straight*：ストレートの拍数のみから選択できます。
 - *Sync Triplets*：3連符の拍数のみから選択できます。4分音符1個分の長さは8分音符3連符3個分と同じです。
 - *Sync Dotted*：付点音符の拍数のみから選択できます。4分音符1個分の長さは、付点8分音符と16分音符の組み合わせと同じです。

- **Type** : アルペジオを演奏する順番 (パターン) を選択します。
 - Up (最低音から最高音に向かって上昇)
 - Down (最高音から最低音に向かって下降)
 - Ordered (キーボードのキーを押した順番で演奏)
 - Reversed (キーボードのキーを押した逆の順番で演奏)
 - Inc (Up と Down を交互に繰り返し、最高音と最低音を2回発音)
 - Exc (Up と Down を交互に繰り返し、最高音と最低音を1回だけ発音)
 - Random (ランダムな順番で演奏)
- **Octave Range**
 - Range: 1-5 オクターブ
- **Rate**
 - **Sync がオン** の場合、アルペジオ音が発音する間隔は、テンポに対する拍数になり、1 Bar (1小節) から 1/64 (64分音符) の範囲で設定できます。
 - **Sync がオフ** の場合、アルペジオのスピードを 15-600 BPM の範囲で設定できます。
- **Part Selection** : マルチプリセットでアルペジエーターを使用する場合、アルペジオ演奏をさせるパートを All (両パート)、Part 1、Part 2 の中から選択できます。
- **Lock** : アルペジエーター使用時にこのオプションを使用すると、そのときのアルペジエーターの設定を維持したまま、別のプリセットでもアルペジオ演奏ができます。このため、別のプリセットを選択するたびにアルペジエーターをその都度オンにする手間を省けます。

8.3. Chord Mode

コードモードは、キーボードやこのモードの設定メニューで設定したコードをワンフィンガーで演奏できる機能です。**Chord** ボタンを押すとコードモードに入ります。



8.3.1. コードを設定する

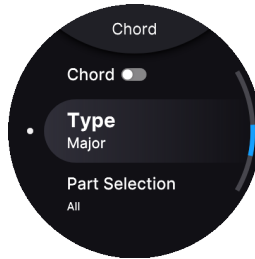
コードモードがオンのときにコードを設定するには、**Chord** ボタンを押しながらキーボードでコードを押さえます。片手で押さえられないような広い音域のコードにしたいときは、その構成音をキーボードで1音ずつ押していくことができ、必ずしも一度にすべての構成音を押さえる必要はありません。

1パートで最大8音までのコードを設定でき、2パート両方で最大16音まで設定できます。

設定したコードの最低音がルート音になります。コードの設定後、ワンフィンガーで演奏すると、その音をルートとしてコード全体がトランスポーズします。

8.3.2. コードモードの設定メニュー

Chord ボタンを長押しすると、コードモードの設定メニューに入ります。ここでは、コードモードの各種設定が行えます。

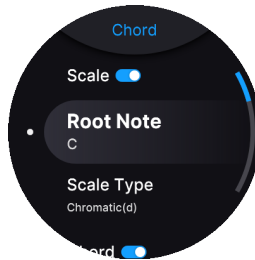


- *Chord* : コードモードのオン/オフを切り替えます。
- *Chord Type* : コードの種類を選択できます。Major (デフォルト)、Major 7、Major 9、Major 11、Custom、Octave、Fifth、Suspended、Minor、Minor 7、Minor 9、Minor 11
- *Part Selection* : マルチプリセットでコードモードを使用するパートを All (両パート)、Part 1、Part 2 の中から選択できます。
- *Lock* : コードモード使用時にこのオプションを使用すると、そのときのコードモードの設定を維持したまま、別のプリセットでもコード演奏ができます。このため、別のプリセットを選択するたびにコードモードをその都度オンにする手間を省けます。

8.4. Scale Mode

Shift を押しながら **Chord** ボタンを押すとスケールモードがオンになります。

スケールエディットモードに入るには、Chord ボタンを長押しします。




スケールモードは、キーボードで演奏する音程のほか、アルペジエーターで演奏する音程にも適用されます。スケール (音階) を指定することで「間違った」音を弾くことは事実上不可能になります。

 スケールエディットモードに入ると、リストの最後に **Lock** スイッチがあります。これをオンにすると、設定したスケールで他のプリセットを試すことができるようになります。

8.4.1. スケールを設定する

スケールを構成する要素は「ルート音」(「キー」ということもあります)と「スケールの種類」です。どちらにも、Chord ボタンを長押しすることでアクセスでき、次のようなオプションがあります：

- **Scale**：スケールモードのオン/オフを切り替えます。
- **Root Note**：スケールのルート音を設定します。C (デフォルト)、C#、D、D#、E、F、F#、G、G#、A、A#、B
- **Scale Type**：スケールの種類を選択します。Major (メジャー：デフォルト)、Minor (マイナー)、Harmonic Minor (ハーモニックマイナー)、Melodic Minor (メロディックマイナー)、Lydian (リディアン)、Mixolydian (ミクソリディアン)、Dorian (ドリアン)、Phrygian (フリジアン)、Locrian (ロクリアン)、Japanese (日本音階)、Gypsy (ジプシー音階)、Arabic (アラブ音階)、Freygish (フレイギッシュ音階)、Pentatonic Major (メジャーペンタトニック)、Pentatonic Minor (マイナーペンタトニック)、Blues (ブルーズ)

 これは重要なポイントですが、Root Note と Scale Type は正しく設定する必要があります。例えば、キーがEのブルーズでソロを弾くときは、Root Note はEに、Scale Type はBluesにします。あるいは、その曲の雰囲気メジャースケール寄りであれば、Root Note はEで、Scale Type をMixolydianにするのも良いでしょう。セオリーにとらわれずに、実験してみてください！

9. WIRELESS SETUP

AstroLab 37 は Wi-Fi とBluetoothに対応しています。**Bluetooth**を使用すれば、スマートフォンやタブレット、コンピュータなどBluetoothを送信できる機器からオーディオストリームを AstroLab 37 に送信できます。**Wi-Fi**を使用すれば、AstroLab Connect アプリを介してモバイル機器から AstroLab 37 をリモートコントロールできます。

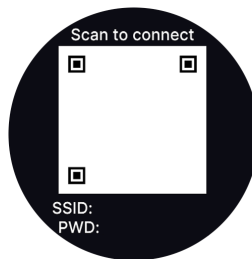
9.1. Wi-Fi の設定

AstroLab 37 は、お使いの Wi-Fi ネットワークに接続できるだけでなく、Wi-Fi スポットとしても機能です。

9.1.1. モバイル機器から Wi-Fi ネットワークに接続する

まず、AstroLab 37 本体の操作でホーム画面 → Settings → WIFI → Start WIFI Pairing の順に進みます。すると QR コードが表示されます。

AstroLab Connect は、スマートフォンやタブレットで利用できる AstroLab 37 のコンパニオンアプリです。このアプリでプリセットやプレイリストのブラウズやエディットができ、サウンドストアから新しいプリセットを入手することもできます。AstroLab 37 本体で表示させた QR コードをスキャンするだけで、AstroLab 37 と AstroLab Connect が同期します。



AstroLab 37 を既存の Wi-Fi ネットワークに接続する手順は、次の通りです：

- **AstroLab Connect** アプリをスマートフォンまたはタブレットにダウンロードしてインストールします。
- アプリを開くと、同じネットワークにある AstroLab 37 に接続しようとします。
- **Start Wi-Fi Pairing** をタップします。この時、アプリがお使いのデバイスのカメラにアクセスする許可を求めます（アンドロイド端末の場合は、ローカライゼーションへのアクセス許可も求めます）ので、OK をタップします。
- AstroLab 37 本体で、ホーム画面 → Settings → WIFI → Start WIFI Pairing の順に進みます。すると QR コードが表示されます。
- モバイル機器のカメラを QR コードに向け、AstroLab Connect を Wi-Fi ネットワーク AstroLab37-XXXX に接続させます。
- 次のページでネットワークを選択し、ネットワークのパスワードを入力します。Continue をタップします。ここから、ネットワークに接続しないを選択することもできます。ネットワークに接続しないことの唯一の違いは、AstroLab 37 がホットスポットのままであることです。また、プリセットやプレイリストなどをブラウズすることはできませんが、インターネットに接続していないため、サウンドストアを表示することはできません。
- ディスプレイに **Connected to network XXX** と表示されます。

9.1.2. AstroLab 37 から Wi-Fi ネットワークに接続する

こちらは AstroLab 37 のナビゲーション・エンコーダーを使用して Wi-Fi に接続する手順です。

- ナビゲーション・エンコーダーで Settings → WIFI → WIFI Mode の順に進みます。
- *Connect to local network* を選択します。
- ナビゲーション・エンコーダーを押し、*WIFI Network* までスクロールします。
- ナビゲーション・エンコーダーを押ししてこれを選択すると、ローカルネットワークのリストが表示されますので、接続したいネットワークを選択します。
- ネットワークの接続にパスワードが必要な場合は、パスワードの入力と確認が行える **テキストエディター** [p.24]が表示されます。
- パスワードを入力すると、選択したネットワークに接続します。

次回からは、AstroLab 37 が接続可能な範囲にあると、前回接続したネットワークをデフォルトとして記憶し、操作不要で接続します。

! 初回接続を正常に行うには、Wi-Fi ルーターがネットワーク名 (SSID) をブロードキャストするように設定されている必要があります。ほとんどのルーターはデフォルトでこの設定になっていますが、セキュリティ上の理由からネットワーク名を非表示にしているユーザーもいます。AstroLab 37 の接続が完了しましたら、SSID を再び非表示にしても差し支えありません。

9.1.3. AstroLab 37 を Wi-Fi ホットスポットとして使用する

AstroLab 37 のホットスポット機能を使用する手順は次の通りです。

- ナビゲーション・エンコーダーで Settings → WIFI → WIFI Mode の順に進み、*Start WiFi Hotspot* を選択します。
- お使いのデバイス (コンピュータ、スマートフォン、またはタブレット) の Wi-Fi 設定を開き、Wi-Fi ネットワークのリストを表示させます。
 - ネットワーク "AstroLab37-XXXX" を選択します。AstroLab 37 のネットワーク名は Wi-Fi Mode メニューで表示され、編集できます。

デフォルトでは、AstroLab 37 のホットスポット機能はパスワードを要求しませんが、Password メニューでパスワードを設定できます。

9.2. ブルートゥースのペアリング

以下の手順で、AstroLab 37 とブルートゥース機器をペアリングできます：

- ペアリングしたい機器（コンピュータ、スマートフォン、またはタブレット）のブルートゥースをオンにします。
- **Shift** を押しながら **Back** を押してホーム画面に移動し、ナビゲーション・エンコーダーで Settings → Bluetooth の順に進みます。
- オフになっていた場合は、ナビゲーション・エンコーダーを押して *Bluetooth On* にします。
- オンにすることで、AstroLab 37 がブルートゥース機器として検出されるようになります。
- ブルートゥース機器側のブルートゥース設定を開きます。ペアリング可能な機器のリストに AstroLab 37 が表示されます。
 - あるいは AstroLab 37 側で *Pair a new Device* を選択する方法もあります。
- デバイスのリストから AstroLab 37 を選択し、ペアリングします。
- ペアリングが完了すると、AstroLab 37 のディスプレイに "Connected to (お使いのブルートゥース機器名)" と表示されます。

9.2.1. ブルートゥース・オーディオストリーミング

コンピュータとペアリングする場合、システム環境設定で AstroLab 37 をオーディオ出力として選択する必要がある場合があります。スマートフォンやタブレットの場合、これは自動的に行われます。これで、デバイスからオーディオをストリーミングし、AstroLab 37（および接続しているアンプやヘッドフォン）をリスニングシステムとして使用できるようになります。この機能は、好きな曲に合わせて演奏したり、スマートフォンやコンピュータに入っている新しい曲を練習するのに最適です。あなたがアレンジャーでしたら、このメリットがハッキリわかるかと思います。

デバイスからのオーディオは、AstroLab 37 のオーディオ出力とミックスされます。このときのバランスは、デバイス側のボリュームで調整してください。

オーディオストリーミングは、AstroLab 37 のサウンドエンジンを経由しませんので、ブルートゥースを使用して外部オーディオを AstroLab 37 のシンセやエフェクトで加工することはできません。しかし、AstroLab 37 のオーディオ入力端子を使用して外部オーディオを加工することは可能です。

10. ASTROLAB CONNECT

私たちの多くは、ワイアレスでガジェットに接続できる利便性を当たり前のように享受しています。Wi-Fi とBluetooth がこれほど信頼できるようになった今、AstroLab 37 とお使いのデバイスとの間にこうした通信手段を実装するのは当然のことでした。

プレイリストの編集はモバイル機器のキーボードのほうが簡単かも知れませんが、プリセット名の入力、スマートフォンのほうが簡単です。音色や EQ をエディットするときは、端末の大きな画面で視覚的なフィードバックが得られます。ライブやレコーディングで演奏する際、新鮮なサウンドバンクをサウンドストアからいつでもダウンロードできます。できることは、ほかにもまだまだあります。



こうした便利なことを始めたいと思われましたら、App Store か Google Play を開いて **AstroLab Connect** アプリを検索しましょう。

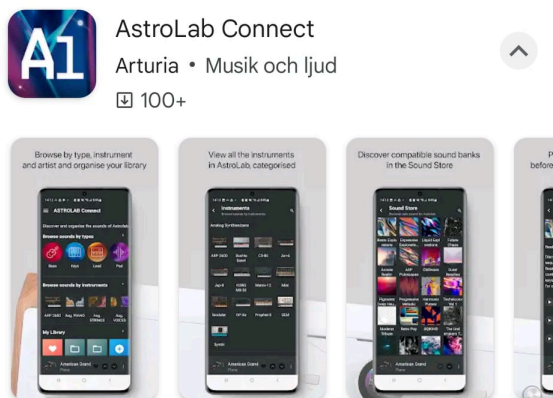
10.0.1. iOS 版 AstroLab Connect をインストールする

まず、App Store を開いて **AstroLab Connect** アプリを検索します。



10.0.2. Android 版 AstroLab Connect をインストールする

Google Play ストアを開いて **AstroLab Connect** アプリを検索します。



10.0.3. AstroLab 37 を Wi-Fi ホットスポットに設定する

AstroLab 37 の内蔵ホットスポット機能を使用する手順は、次の通りです。

- AstroLab 37 のナビゲーション・エンコーダーで Settings → WIFI → WIFI Mode の順に進み、*Start WiFi Hotspot* を選択します。
- お使いの機器 (コンピュータ、スマートフォン、またはタブレット) の Wi-Fi 設定を開き、Wi-Fi ネットワークのリストを表示させます。
 - ネットワーク "AstroLab37-XXXX" を選択します ("XXXX" にはお使いの AstroLab 37 のシリアルナンバー下4桁が入ります)。

i AstroLab 37 のネットワーク名の下4桁は、AstroLab 37 の1台1台で異なる ID です。同じ空間に複数台の AstroLab 37 がある場合でも識別できて便利です。

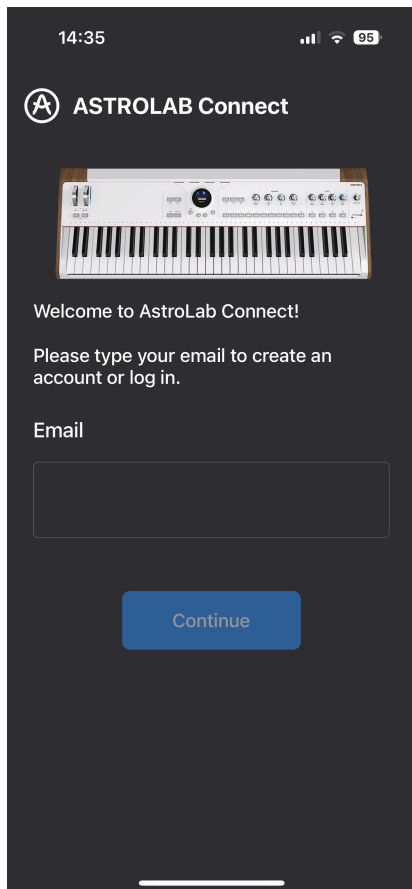
デフォルトでは、AstroLab 37 のホットスポット機能は接続にパスワードを要求しません。

i AstroLab 37 が Analog Lab とリンクしていない場合、AstroLab Connect は、AstroLab 37 とのみ接続します。AstroLab 37 と Analog Lab との統合 (リンク) に関する詳細につきましては、[CHAPTER 12 \[p.84\]](#)をご覧ください。

10.0.4. モバイル機器の設定をする

まず、AstroLab 37 が Wi-Fi ホットスポットモードに設定されていて、お使いのモバイル機器からそのホットスポットが見えるをご確認ください。見えない場合は、モバイル機器の Wi-Fi を一旦オフにしてから再度オンにしてみてください。

次に、モバイル機器にインストールした AstroLab Connect を開きます。すると、お使いの Arturia アカウントでログインすることを要求されます。アカウントをお持ちでない場合は、アプリからアカウントを作成することもできます。



お使いのモバイル機器が近くに AstroLab 37 があるかどうかをスキャンします。モバイル機器と AstroLab 37 を初めて接続するときは、QR コードのスキャンを求められます。AstroLab 37 の画面に QR コードを表示させるには、Settings → WIFI の順に進み、**Start WIFI Pairing** を選択します。

数秒待ってから QR コードをスキャンします。エラーメッセージが表示された場合は、モバイル機器から AstroLab 37 がホットスポットとして見えているかどうかをチェックしてください。モバイル機器の Wi-Fi を一旦オフにし、再度オンにすると見えるようになることもあります。

10.0.5. QR コードをスキャンする

AstroLab Connect アプリを開き、QR コードをスキャンします。すると、AstroLab 37 Wi-Fi ホットスポットに接続するように求められます。また、ローカライズとローカル Wi-Fi ネットワークへの接続に関するいくつかの承認を求められる場合があります。

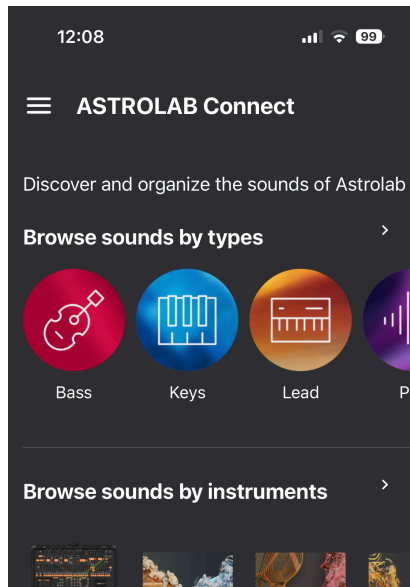
数秒後、ローカル Wi-Fi のパスワード入力を求められます。この後、AstroLab 37 はローカルネットワークに接続されるはずです。

接続後、AstroLab 37 がローカルネットワークに接続していることを確認できます。アプリ側では、ホーム画面に戻り、まもなく同期が始まります。

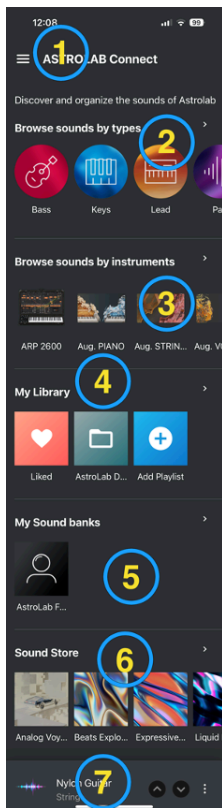
AstroLab 37 をホットスポットモードにしたままの状態でも、アプリとの同期はできますが、Arturia ストアは利用できません。

10.1. ホーム画面

AstroLab Connect と AstroLab 37 本体が正しく接続しましたら、2つを一緒に使い始めることができます。



最初に表示されるのは、下図のようなホーム画面です。画面の各部の機能は下図の通りです。

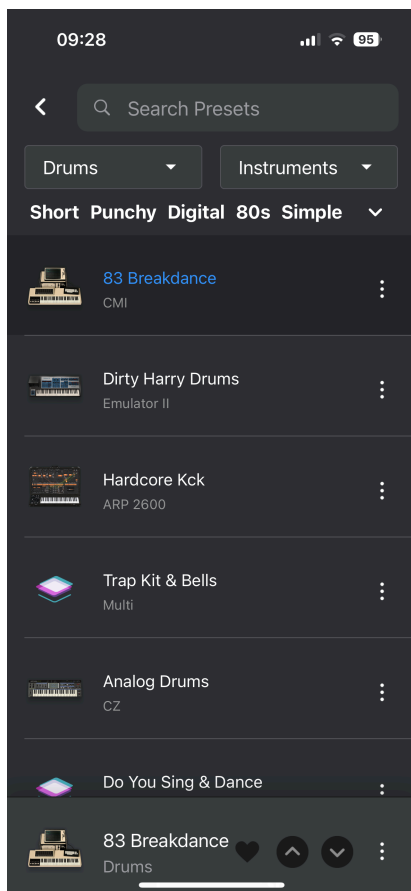


1. 画面左上のハンバーガーアイコンをクリックして Sound Edit ページや Settings ページへの移動、ログアウト、またはホーム画面に戻ることができます。
2. Browse sounds by types (タイプ別に音色をブラウズ)
 - タイプのアイコンをタップして選択します。
 - 右へスクロールするとすべてのタイプを見ることができます。
 - 「Browse sounds by types」またはその右にある矢印 (">") をタップすると、すべてのタイプを一画面に表示します。
3. Browse sounds by instruments (インストゥルメント別に音色をブラウズ)
 - インストゥルメントのアイコンをタップして選択します。
 - 右へスクロールするとすべてのインストゥルメントを見ることができます。
 - 「Browse sounds in instrument」またはその右にある矢印 (">") をタップすると、すべてのインストゥルメントを一画面に表示します。
4. My Library (ライブラリー)
 - ライブラリーのアイコンをタップして選択します。
 - 右へスクロールするとすべてのライブラリーを見ることができます。
 - 「My Library」またはその右にある矢印 (">") をタップすると、すべてのプレイリストとお気に入りプリセットを一画面に表示します。
5. My Sound banks (サウンドバンク)
 - サウンドバンクのアイコンをタップして選択します。
 - 右へスクロールするとすべてのサウンドバンクを見ることができます。
 - 「My Sound banks」またはその右にある矢印 (">") をタップすると、すべてのサウンドバンクを一画面に表示します。
6. Sound Store (サウンドストア)
 - バンクのアイコンをタップして選択します。
 - 右へスクロールするとすべてのバンクを見ることができます。
 - 「Sound Store」またはその右にある矢印 (">") をタップすると、ストア内のサウンドバンクをさらに表示します。
7. 画面下部には、現在選択しているプリセット名が表示されます。上下の矢印ボタンで1つ前や1つ先のプリセットに切り替えることができます。その右のスリッドアイコンをタップすると、次のような内容のメニューが開きます：
 - Like Preset : このプリセットをお気に入りに登録します (または登録を解除します)。
 - Edit sound : このプリセットの音色エディットモードに入ります。
 - Add to Playlist : このプリセットをプレイリストに追加します。

最後のアイテム (上図の7番) は、プレイリストからプリセットをロードしているかどうかで表示が異なることがあります。その場合、プリセットを別のソングに移動させたり、プリセットのリネームや削除が行えます。

10.2. The Explore View - サーチ画面

AstroLab 37 には膨大な数のプリセットがあり、それらの間を自由に移動できることが重要です。プリセットを検索する方法は数多くありますが、そのすべてがこのプリセットページにつながっています。

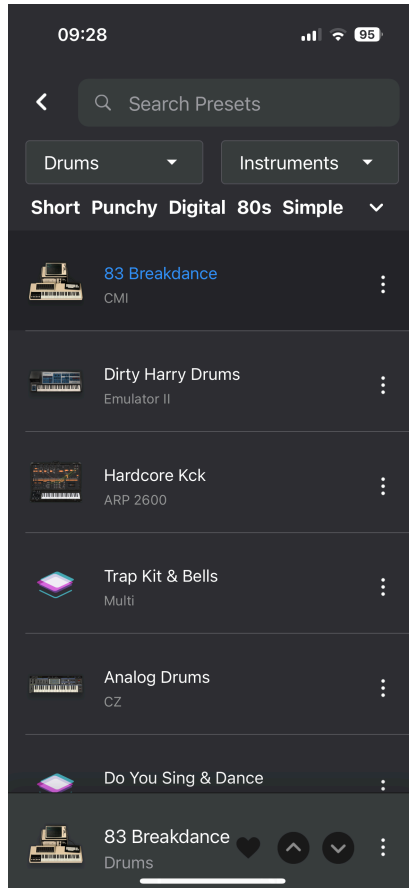


プリセットをタイプ別やインストール別にブラウズしたり、サウンドバンクからこのページを開くことができます。

上図のようなリストが開きましたら、プリセットをタップして選択できます。お使いのデバイスが AstroLab 37 に接続している場合、ここで選択したのと同じプリセットが選択されます。

10.2.1. プリセットを検索する

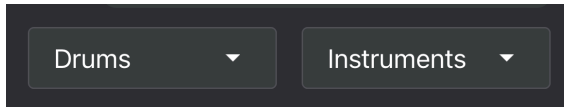
この画面の最上部はサーチフィールドになっています。ここでは、すぐ下に表示されているフィルタリングのカテゴリーに合致するプリセットを検索することができます。



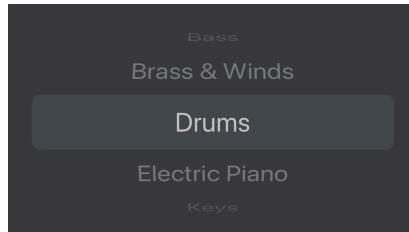
プリセット名から検索でき、プリセット名の一部だけでも検索できます。

10.2.2. フィルタリングする

この画面の再上部近くに2つのフィルターがあります。



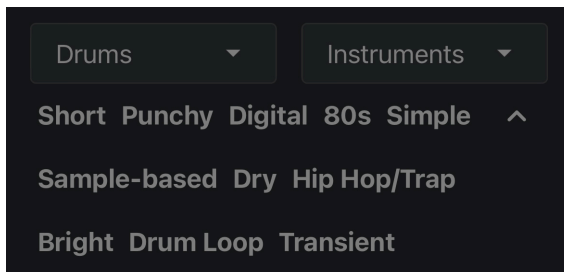
上図の左側のフィルターが Drums となっているのは、現在**ドラムタイプ**のカテゴリに入っていることを示すためです。



この "Drums" をタップすると別の音色タイプにスクロールします。

同様に Instruments とある右側のフィルターも、タップすると別のフィルター、例えば DX7 に切り替えると、DX7 に関連したプリセットがリスト表示されます。

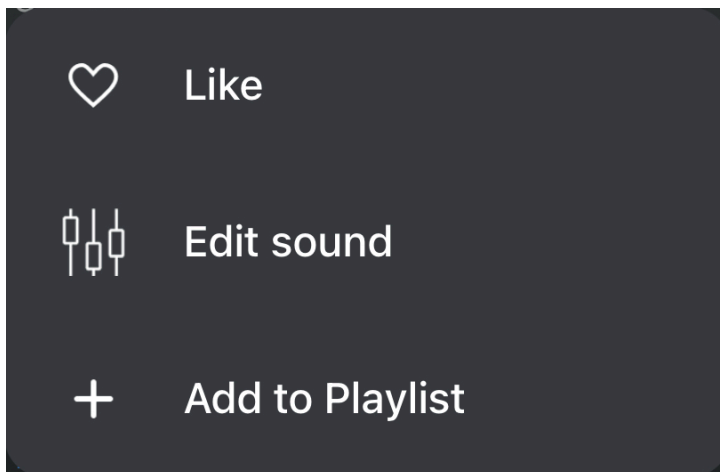
そのすぐ下段は、Short や PUNCHY など、音色のキャラクターを示すフィルター (タグ) です。



これらのキャラクターやタグを使用してさらにフィルタリングするには、下向きの矢印をタップします。

10.2.3. スリードットアイコン

各プリセットの右側には、ドットが縦に3つ並んだスリードットアイコンがあります。これをタップすると、次のような便利な機能が使用できます。



- **Like** : これをタップすることで、そのプリセットが Favorite (お気に入り) に登録されます。お気に入りに登録されたプリセットは、ハートのアイコンが塗りつぶされた状態になります。
- **Edit sound** : これをタップすると、そのプリセットのマクロ (Brightness、Timbre、Time、Movement) と、ボリューム、EQ をエディットできます。
- **Add to Playlist** : プリセットをプレイリストのソングに追加します。プレイリストは、プリセットをグルーピングできる便利な機能です。詳細は、[こちら \[p.47\]](#)をご覧ください。

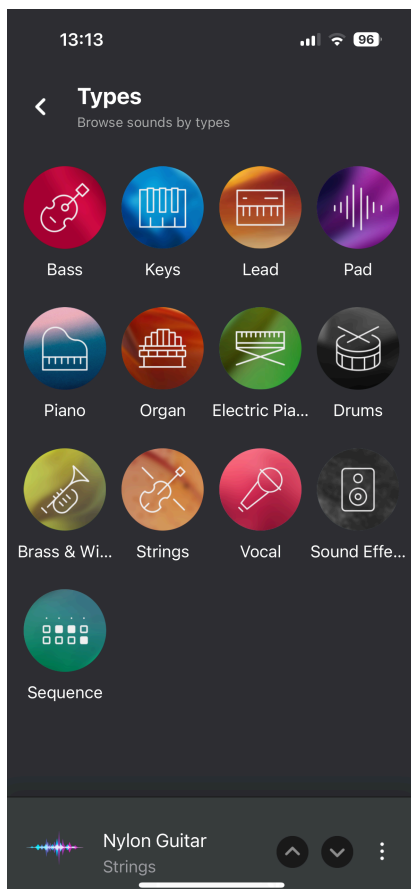
10.3. フィルタリングしてプリセットを見つける

AstroLab Connect の最も便利な機能の1つは、プリセットを検索するための各種機能です。プリセットページとそのフィルターにつきましては、前のセクションですすでにご紹介しています。

ホーム画面には、タイプ別、インストゥルメント別など、プリセットを閲覧するためのフィルターが用意されています。まずはそれらを見てみましょう。

10.4. Types ページ

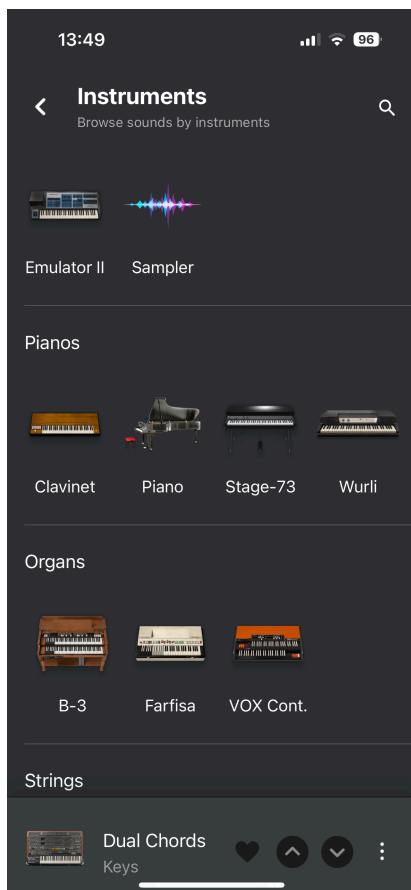
ホーム画面で **Browse sounds by types** をタップすると、このページが開きます。ここではタイプの一覧が表示されます。



タイプのアイコンをタップすると、そのタイプに属しているプリセットが表示されます。表示されたプリセットの1つをタップすると、そのプリセットが選択されます。すると、前のセクションでご紹介しましたプリセットページが開きます。

10.5. Instruments ページ

ホーム画面から **Browse sounds by instruments** をタップするとこのページが開き、インストゥルメントの一覧が表示されます。

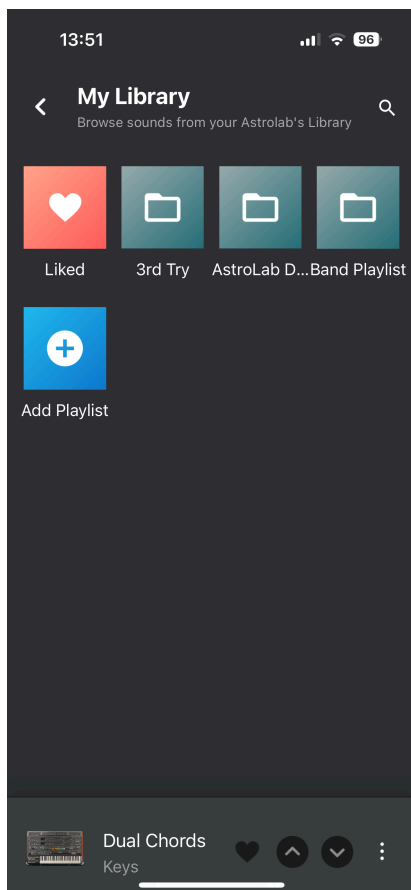


インストゥルメントのアイコンをタップすると、そのインストゥルメントを使用したプリセットが表示されます。表示されたプリセットの1つをタップすると、そのプリセットが選択されます。

すると[こちらのセクション \[p.65\]](#)でご紹介しましたプリセットページが開きます。

10.6. My Library ページ

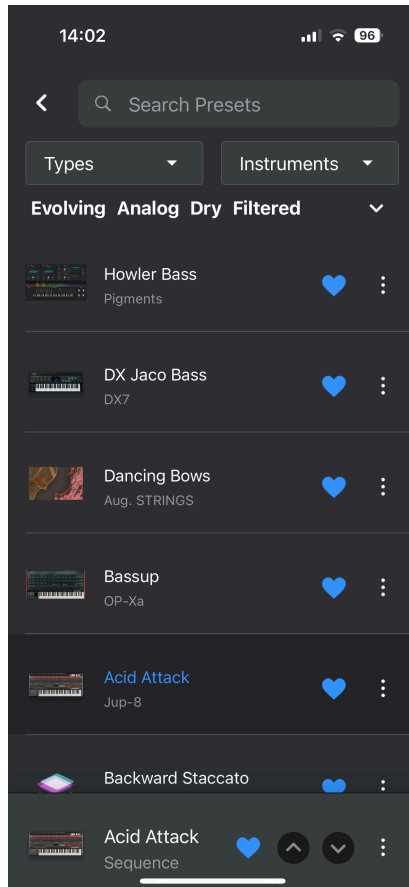
ホーム画面の **My Library** をタップするとこのページが開き、すべてのプレイリストと「お気に入り」に登録したプリセット (Liked) が一覧表示されます。



アイコンをタップすると **Liked Presets** (お気に入りプリセット) が**プレイリスト**の内容が表示されます。

10.6.1. Liked Presets

「お気に入り」に登録されたプリセットが表示され、プリセット名をタップするとそれが選択されます。プリセット名の右にあるスリッドアイコンをタップすると、**Unlike** (お気に入りの登録解除) や **Edit** (音色エディット)、または **Playlist** (プレイリストに追加) のいずれかを選べます。

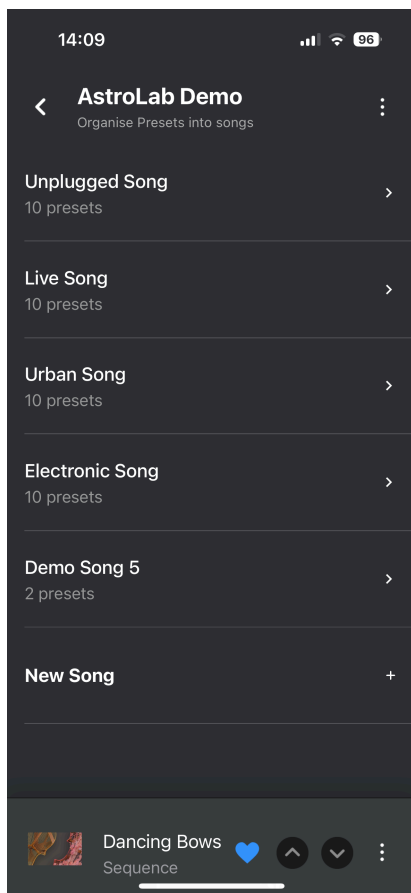


このページのリネーム機能につきましては、[プリセットページ・セクション \[p.65\]](#)をご覧ください。

10.6.2. Songs: AstroLab 37 Demo

デフォルトでは、AstroLab 37 には **AstroLab Demo** という**プレイリスト**が入っています。このプレイリストには、デモ用の**ソング**が多数入っており、特にリハーサルやライブの場面で、プレイリストやソングの活用を実感していただけるかと思えます。

ホーム画面から **My Library** をタップし、**AstroLab Demo** をタップすると、4つのソング例が表示されます。ソングの1つを選択すると、そのソングで使用するプリセットのリストが表示されます。

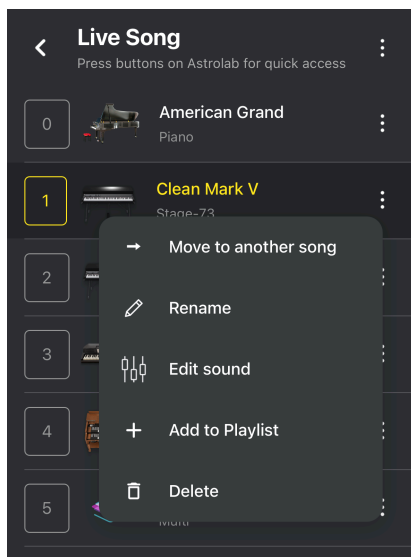


この時点で AstroLab 37 を演奏してみてください。選択したソングのプリセットの1つがすでにロードされています。ここで次の曲を演奏しようとしていると想像してください。AstroLab 37 の上下の矢印ボタンを押すことで、ステージの進行に合わせてプリセットを切り替えることができます。

 プリセットタイプ・ボタンの 0-9 を押して、ソング内の最初から10個目までのプリセットを選択することもできます。

10.6.2.1. ソングページのその他の機能

ソング内の各プリセット名の右側には、スリドットアイコンがあり、これをタップすると次のようなメニューが開きます：



- **Move (preset) to another song**：そのプリセットを別のソングに移動する
- **Rename**：そのプリセット名を変更する (リネーム)
- **Edit sound**：音色エディットに入る
- **Add (preset) to Playlist**：そのプリセットをプレイリストに追加する
- **Delete (preset)**：そのプリセットを現在のソングから削除する

10.6.2.2. ソングのリネームと削除

ソングページを開くと、ソング名の右側にスリドットアイコンがあります。

これをタップすると、次のコマンドを選択できます：

- **Rename**：そのソングの名前を変更します。
- **Delete**：そのソングを削除します。

10.6.3. ソングを新規作成する

ソングのリストの最後に **New Song** というのがあります。これをタップすると、ソングを新規作成するかどうかを聞かれます。

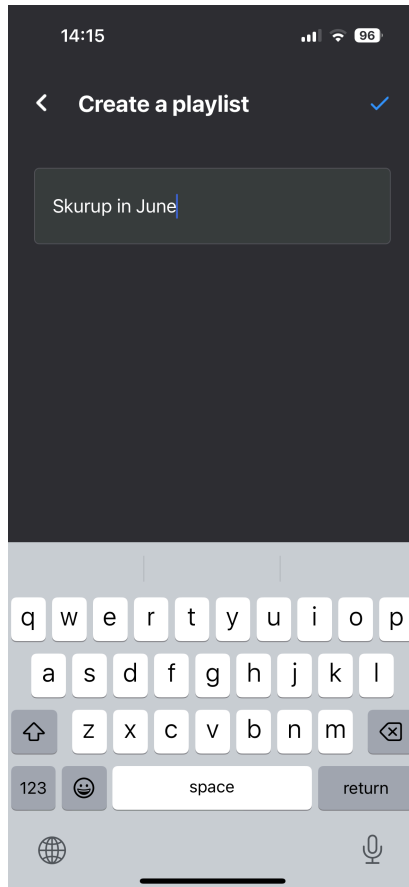
10.6.4. Adding Presets to a Song - ソングにプリセットを追加する

任意のプリセットを選択し、画面の最下部にあるスリードットアイコンをタップして **Add to Playlist** を選択します。次にそのソングがどの**プレイリスト**に属しているかを選択し、プリセットを入れたい**ソング**を選択します。

プリセットをソングに追加する方法はもう1つあります。ソングを開いている状態で、その時選択していたプリセットが別のソングやプレイリストに適していると思えば、スリードットアイコンをタップします。次に **Add to Playlist** を選択し、プレイリストとソングを選択します。するとそのプリセットは、選択したプレイリストのソングの末尾に追加されます。

10.6.5. プレイリストを追加する

ホーム画面から **My Library** をタップすると **Add Playlist** のアイコンが表示されます。これをタップすると、新規作成されるプレイリストに名前をつけることができます。



名前を入力しましたら、そのプレイリストにソングを追加できます。新規作成されるソングの名前を入力します。

するとそのソングにプリセットを追加するかどうかを聞かれます。プリセットをソングに追加する方法は、[ソングにプリセットを追加する \[p.75\]](#)をご覧ください。

10.7. My Sound Banks

ホーム画面を開き、**My Sound banks** まで下にスクロールします。これをタップすると、すべてのサウンドバンクが表示されます。そこから、サウンドバンク別にプリセットをブラウズできます。

AstroLab 37 を購入されたばかりで、Analog Lab でサウンドバンクをまだ作成していない場合、このページに表示されるサウンドバンクは「AstroLab 37 Factory」のみです。

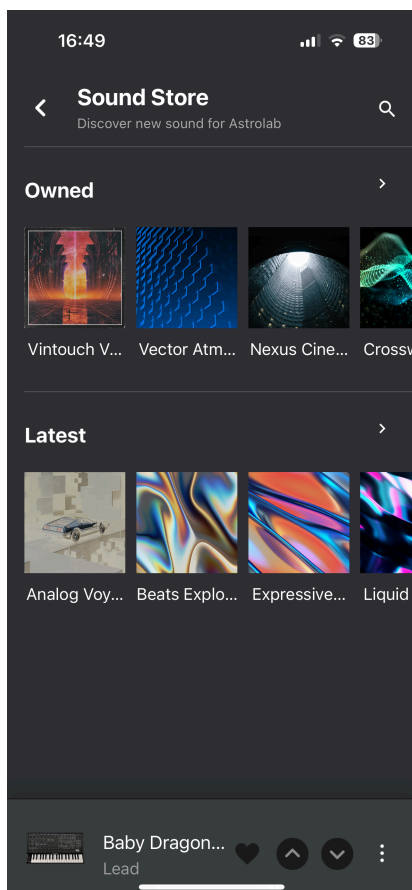
サウンドストアからサウンドバンクを購入すると、それがこのページに表示されます。

サウンドバンクの1つをタップすると、その中のプリセットを AstroLab 37 で演奏できます。AstroLab Connect でプリセットをタップするだけで、そのプリセットを AstroLab 37 で演奏できます。

このページのその他の機能につきましては、[サーチ画面 \[p.65\]](#)をご覧ください。


10.8. さらなる音色を発見する

ホーム画面から下にスクロールし、**Sound Store** をタップするとこのページが開きます。



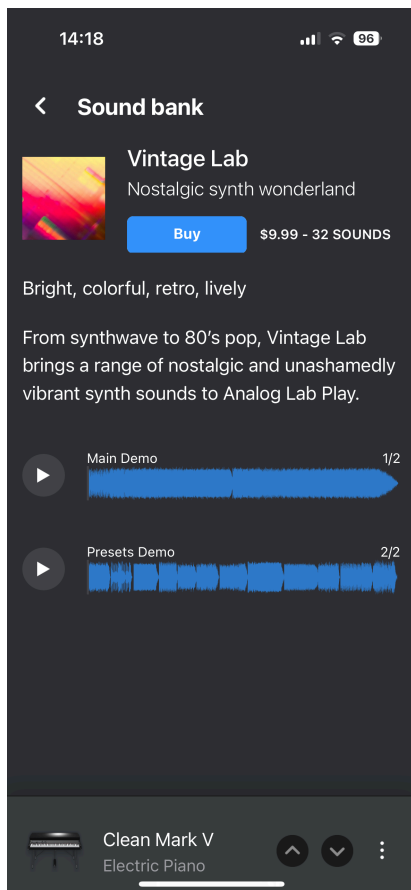
このページには2つのカテゴリー、**Owned** (サウンドストアから購入済みのサウンドバンク) と **Latest** (まだお試しになっていないサウンドバンク) があります。

Analog Labをお持ちで、サウンドバンクを購入したことがある場合、AstroLab Connectでもそのサウンドバンクが表示され、AstroLab 37にインストールすることができます。

 AstroLab 37がWi-Fi ホットスポットモードになっており、モバイル機器と接続している場合は、サウンドストアを使用できませんのでご注意ください。

10.8.1. AstroLab 37 にサウンドバンクをインストールする

サウンドバンクのアイコンをタップすると新たなページが開き、そのサウンドバンクを購入してAstroLab 37にインストールできます。Installをタップするとインストールが始まります。



このページでは、そのサウンドバンクの情報が表示され、アプリ上で試聴できます。



インストールが完了すると **Install** ボタンの表記が **Uninstall** に変わります。サウンドバンクをアンインストールしたいときに便利です。

10.8.2. サウンドストアでサウンドバンクを購入する

サウンドバンクの購入は、音色の幅を広げるのに便利でコストパフォーマンスの高い方法です。アプリでサウンドバンクの説明を読み、試聴した後で **Buy** ボタンをタップすると購入処理が始まります。

08:44 100

< Payment process

PERSONAL INFORMATION

The following pieces of information are required to complete your purchase. Please fill each of these fields to pursue.

First Name * Last Name *

Address*

Zip / Postal Code * City *

Submit

次のページでは、個人情報の入力を求められます。**Submit** をタップすると、お支払いの詳細ページに移動します。規約に同意し、**Pay Now** をタップすると、購入手続きが完了します。

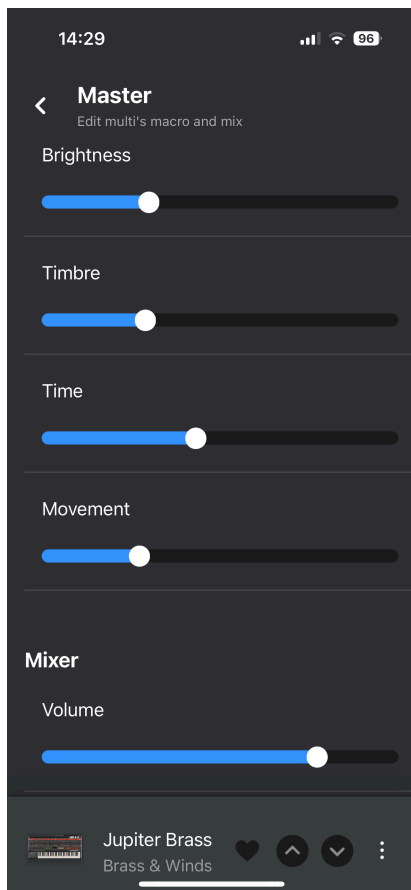
購入後、**Install** ボタンをタップしてください。AstroLab 37 では、ホーム画面に戻るまで **Back** ボタンを押します。**Sound Banks** を選択すると、新しいサウンドバンクが表示されます。

10.9. AstroLab Connect で音色をエディットする

音色エディットモードに入るには2つの方法があります。

- アプリの画面下部にエディットしたいプリセットがリスト表示されている場合、そのプリセットのスリドットアイコンをタップして、**Edit Sound** を選択します。
- ホーム画面から、ハンバーガーアイコン (横3本線のアイコン) をタップして **Sound Edit** を選択します。

Master をタップすると、マクロとミキサー/EQ セクションのエディットページに移動します。



i アプリのスライダーと AstroLab 37 本体のノブは、インタラクティブに動作します。アプリのスライダーを操作すると、AstroLab 37 の音色が変化し、AstroLab 37 本体のノブを操作すると、それに応じてアプリのスライダーが動きます。

音色エディットのパラメーターなどの詳細につきましては、[チャプター5 \[p.35\]](#)をご覧ください。

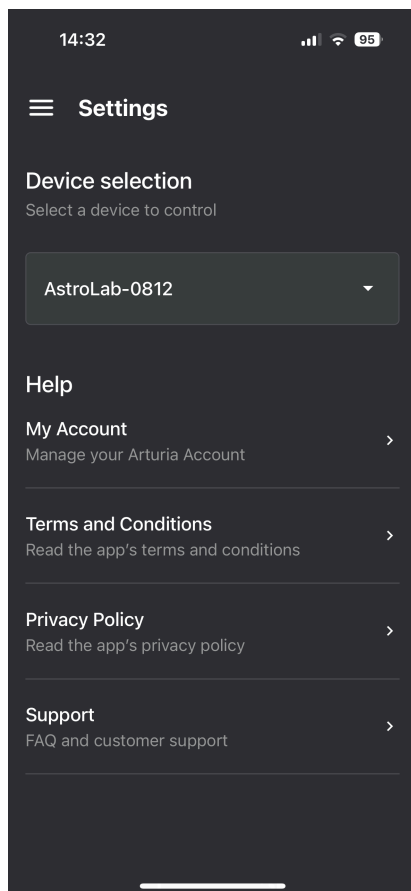
10.10. ログアウト

AstroLab Connect からログアウトするときは、画面左上のハンバーガーアイコンをタップして Logout を選択します。

10.11. Settings

ハンバーガーアイコンのメニューの最後には Settings があります。

ここでは、AstroLab 37 とお持ちの Arturia アカウントに関するユーティリティがあります。



10.11.1. Device Selection

ユーティリティの1つ目には、接続している AstroLab 37 本体の ID が表示されます。複数の AstroLab 37 を使用している場合は、ここでどの AstroLab 37 と接続するかを選択できます。

10.11.2. Help

ここにはいくつかのアカウントがリスト表示されます。また、Arturia サポートへのリンクもあります。

- **My Account** : Arturia アカウントをお持ちでない場合は、ここで作成することもできます。また、Arturia 製品の登録がまだの場合は、ここで登録できます。
- **Terms and Conditions** : AstroLab Connect アプリの利用規約です。必ずお読みください。
- **Privacy Policy** : Arturia の個人情報保護方針です。
- **Support** : お困りごとがあるときや、ヘルプが必要なときは、Arturia のサポートがいつでもそばについています。マニュアルや FAQ もここにあります。

11. 仕様


11.1. 物理的仕様

外形寸法および質量	
外形寸法	515 x 214 x 59 mm
質量	1.95 kg

11.2. 電氣的仕様

電源	
パワーサプライのタイプ	スイッチングモード・パワーサプライ

電源入力: 100V - 240V ~50/60Hz 1A

電源出力: 12.0V  2.0A 24.0W Max

11.3. AstroLab 37 MIDI インプリメンテーション

セクション	パラメーター	MIDI CC	送信	受信
MIDI	Mod ホイール	1	常時	常時
マスター	マスターボリューム	7	不可	不可
	エクスプレッション	11	常時	常時
	Aux 1	12	常時	常時
	Aux 2	13	常時	常時
	リバーブ	16	リンクせず	常時
	エフェクト B	18	リンクせず	常時
	ディレイ	19	常時	常時
ペダル	サステイン	64	常時	常時
	Timbre (マクロ)	71	リンクせず	常時
	フェーダー 4	72	—	常時
	フェーダー 1	73	—	常時

セクション	パラメーター	MIDI CC	送信	受信
インストゥルメント	Brightness (マクロ)	74	リンクせず	常時
	フェーダー 2	75	—	常時
	Time (マクロ)	76	リンクせず	常時
	Movement (マクロ)	77	リンクせず	常時
	フェーダー 3	79	—	常時
	フェーダー 5	80	—	常時
	フェーダー 6	81	—	常時
	フェーダー 7	82	—	常時
	フェーダー 8	83	—	常時
	フェーダー 9	85	—	常時
エフェクト	エフェクト A	93	リンクせず	常時
機能	1つ前のプリセット	102	不可	常時
	1つ次のプリセット	103	不可	常時
	1つ前のソング	104	不可	常時
	1つ次のソング	105	不可	常時
	アルペジオ On/Off	106	不可	常時
	アルペジオホールド	107	不可	常時
	タップテンポ	110	不可	常時
	ロータリーファスト On/Off	111	不可	常時
	エフェクト A On/Off	112	不可	常時
	エフェクト B On/Off	113	不可	常時
	ディレイ On/Off	114	不可	常時
	リバーブ On/Off	115	不可	常時

12. ASTROLAB 37 AND ANALOG LAB INTEGRATION

AstroLab 37 と Analog Lab は、どちらがどちらということはありませんが、母船と衛星のような関係にあります。AstroLab 37 と Analog Lab の役割分担も、ステージ上、スタジオ、プリセットのエディットなど、状況によっても変わります。

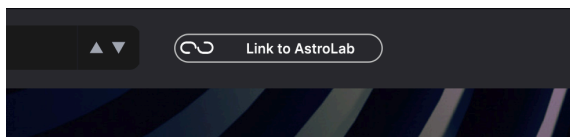
Analog Lab をインストールしてあるコンピュータに AstroLab 37 を USB で接続すると、この2つが通信できるようになります。この統合は、すぐにおわかりになるように、非常に強力です。



♪ Link to AstroLab ボタンは、Analog Lab のバージョン5.10以降で表示されます。

12.1. AstroLab 37 を Analog Lab に接続する

Analog Lab の画面最上部付近に **Link to AstroLab** というボタンがあります。



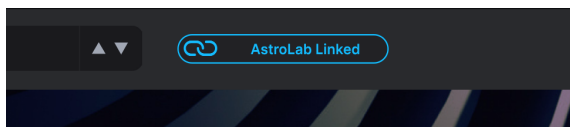
上図のようなボタンが Analog Lab の画面最上部付近に表示されなかったり、Analog Lab の Settings パネルに AstroLab Settings セクションが表示されない場合は、AstroLab 37 の電源が入っており、コンピュータに接続されているかどうかをお確かめください。



♪ AstroLab 37 がコンピュータに接続されており、AstroLab 37 の電源が入っている場合にのみ、Link to AstroLab ボタンが表示されます。

12.2. AstroLab Link

AstroLab 37 とコンピュータ上の Analog Lab がリンクすると、まったく新しいワークフローが実現し、次のようなことができます。



- AstroLab 37 でプリセットをロードすると、同じプリセットが Analog Lab にもロードされます。
- Analog Lab でプリセットをロードすると、同じプリセットが AstroLab 37 にもロードされます。
- AstroLab 37 のマクロやエフェクトパラメーターをエディットすると、その情報が Analog Lab に送信されます。
- Analog Lab のコントロールパネルをエディットすると、その情報が AstroLab 37 に送信されます。
- Analog Lab の Studio 画面や Instrument 画面で行ったエディットの情報は、AstroLab 37 には送信されません。

♪ リンク機能は、Analog Lab がスタンドアロンモードで動作しているか、DAW のプラグイン・インストールメントとして動作しているかで、次のようなわずかな違いがあります：

- スタンドアロン動作時の Analog Lab と初めてリンクした場合、AstroLab 37 にロードされているプリセットが Analog Lab に送信されます。
- DAW のプラグインとして動作している Analog Lab と初めてリンクした場合、Analog Lab にロードされているプリセットが AstroLab 37 に送信されます。

12.3. AstroLab 37 のプリセットを Analog Lab でエディット



AstroLab 37 のプリセットを Analog Lab にロードすると、マウスやコンピュータのキーボード、大きな画面などの利便性を活用して、プリセットの全パラメーターをエディットできます。エディットには以下の内容が含まれます：

- サイドパネルで行うマクロのカスタマイズ
- キーボードの Settings パラメーターのエディット
- スタジオ画面のパラメーター（パートミックス、エフェクト、EQ）
- プリセット名、タイプ、スタイル、バンク、コメントのエディット
- インストゥルメント画面の全インストゥルメント・パラメーターのエディット（お持ちのインストゥルメントのみ可能）

Analog Lab でエディットした時点では、その結果は AstroLab 37 には反映されませんので、AstroLab 37 にプリセットを送信するまでは、AstroLab 37 と Analog Lab で音色が異なりますのでご注意ください。

プリセットをエディットしましたら、そのプリセットを保存して AstroLab 37 に送信します。

♪ 本体サイズの都合上、マルチプリセットのエディットは AstroLab 37 本体から直接行うことはできません。回避策として、Analog Lab でマルチプリセットをエディットし、それを AstroLab 37 に保存することができます。♪ Analog Lab で行える音色エディットのすべてにつきましては、Analog Lab のユーザーマニュアルをご覧ください。マニュアルは、[Arturia ウェブサイト](https://www.arturia.com/ja)からダウンロードできます。

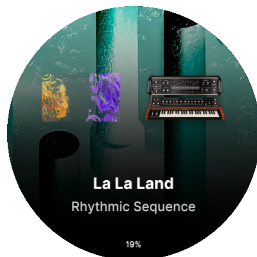
12.3.1. Analog Lab のプリセットを AstroLab 37 で使用する

Analog Lab のプリセットを AstroLab 37 にロードするには、最初に Analog Lab の **AstroLab Link** をオンにします。

次に、Analog Lab のプリセットブラウザからプリセットを選択します。すると、同じプリセットが AstroLab 37 にロードされます。

- そのプリセットがすでに AstroLab 37 に入っている場合、そのプリセットは通常通りにロードされます。
- そのプリセットが AstroLab 37 に入っていない場合は、AstroLab 37 のメモリがオーバーフローするのを防ぐために、そのプリセットのデータとサンプル（サンプルを使用している場合）が AstroLab 37 に一時的に送信されます。

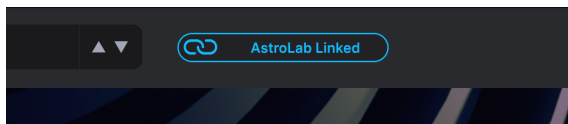
プリセットがロードされると、AstroLab 37 の画面にそのプリセット名が表示されます。



♪ Analog Lab の一部のプリセットは、AstroLab 37 に対応していません。[互換性と制限 \[p.86\]](#)をご覧ください。

12.3.2. AstroLab 37 のプリセットを Analog Lab で使用する

AstroLab 37 のプリセットを Analog Lab にロードするには、最初に Analog Lab の **AstroLab Link** をオンにします。



次に AstroLab 37 でプリセットを選択します。すると、そのプリセットが Analog Lab にロードされ、そのプリセット名が Analog Lab のプリセットバーに表示されます。

12.3.3. Preset Compatibility and Limitations - 互換性と制限

Analog Lab で使用できるインストゥルメントのほとんどは、AstroLab 37 でも使用できますが、Analog Lab の一部のプリセットは AstroLab 37 に対応していません（次ページ以降の表をご覧ください）。

また、V Collection や Pigments をお持ちの方は、対応しているプリセットを AstroLab 37 にロードできませんが、発音数が減少したり、一部の機能が使用できないことがあります（次ページ以降の表をご覧ください）。

Analog Lab と AstroLab 37 がリンクしている場合、AstroLab 37 に対応していないプリセットを選択すると、Analog Lab 側に注意メッセージが表示されます（下図参照）。また、AstroLab 37 に非対応のプリセットは、Analog Lab 側ではグレースアウト表示になることで、そのプリセットが非対応であることがわかります。

① Impossible to load this preset in AstroLab

This preset cannot be loaded in AstroLab because its sound engine is not compatible.

Ok

12.3.4. AstroLab 37 で制限が発生する Analog Lab のプリセット

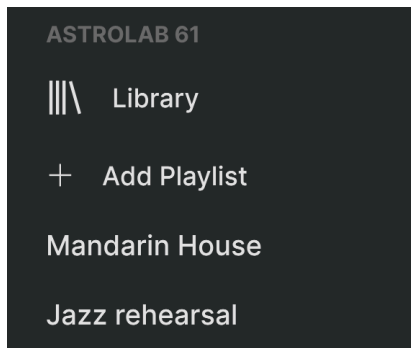
AstroLab 37 を常に安全かつ最高のサウンドとプレイアビリティでご使用いただけるように、Analog Lab の一部のプリセットは、AstroLab 37 で使用するとき次のような制限が発生します。

制限	内容
発音数の制限	CPU のオーバーロード防止のため、ほとんどのインストゥルメントで発音数が制限されます。 <ul style="list-style-type: none">• ポリシンセ：8ボイス• ピアノ & オルガン：48ボイス
音色の制限	一部のインストゥルメントでは発音数以外にも、CPU 負荷が大きい機能が制限されることがあります。 対象インストゥルメント： <ul style="list-style-type: none">• Pigments (ユニゾン、グラニューラーエンジン、ハーモニックエンジンの倍音数、エフェクト)• Augmented シリーズ (グラニューラーエンジン、使用できるエンジン数)
コンボリユーション・リバーブ	インストゥルメントの中には、コンボリユーション・リバーブを内蔵しているものがあります。動作上の理由から、内蔵コンボリユーション・リバーブはバイパスになり、Analog Lab のコンボリユーション・リバーブに置き換わります。 対象インストゥルメント： <ul style="list-style-type: none">• Augmented シリーズ• B-3 V• Clavinet V• Farfisa V• Piano V• Solina V• Stage-73 V• Vox Continental V• Wurli V
Mellotron のサンプルとネーミング	Mellotron V のオリジナルテープ音は、AstroLab 37 では使用できません。代表的なテープは再録音され、Sampler のプリセットとして使用できます。
旧バージョンのインストゥルメント	一部のプリセットでは AstroLab 37 に対応していない旧バージョンのインストゥルメントを使用しているものがあります。 対象インストゥルメント： <ul style="list-style-type: none">• Piano V1、V2• B-3 V1• Stage-73 V1• Prophet V/VS• CS-80 V1、V2、V3• Jup-8 V1、V2、V3• Analog Lab 2/3/4 (マルチ)

制限	内容
比較的新しいインストゥルメント	現時点では AstroLab 37 に対応していませんが、ライブパフォーマンスでの使用に耐えうよう完全に検証される必要があるため、今後のアップデートで対応する予定です。 対象インストゥルメント： • CP-70 V • Mellotron V

12.3.5. AstroLab 37 のライブラリーを管理

Analog Lab と AstroLab 37 がリンクしているとき、AstroLab 37 のプリセットは Analog Lab の画面左側のパネルの **My Playlists** 以下にリスト表示されます。この場合、次のことが行えます：

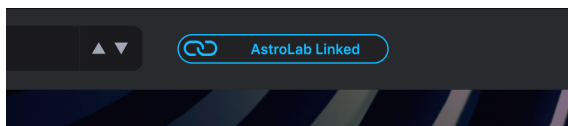


- **Save**：エディットした内容を AstroLab 37 または Analog Lab のプリセットとして保存します。
- **Save As**：エディットした内容を AstroLab 37 または Analog Lab のプリセットとして保存します (別名で保存)。
- **Add to Playlist**：プリセットをプレイリストに追加します。
- **Delete**：プリセットを AstroLab 37 のライブラリーから削除します。

12.3.6. AstroLab 37 のプリセットを Analog Lab で閲覧する

Analog Lab のライブラリー画面を使用しているとき、または画面左側のパネルでプレイリストを使用しているときは、AstroLab 37 のプリセットを閲覧できます。

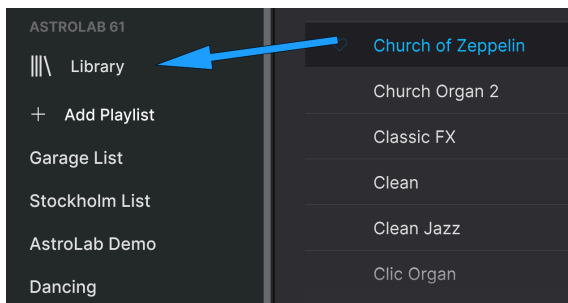
まず、AstroLab 37 がコンピュータに USB 接続されていることと、AstroLab Link がオンになっていることをご確認ください。



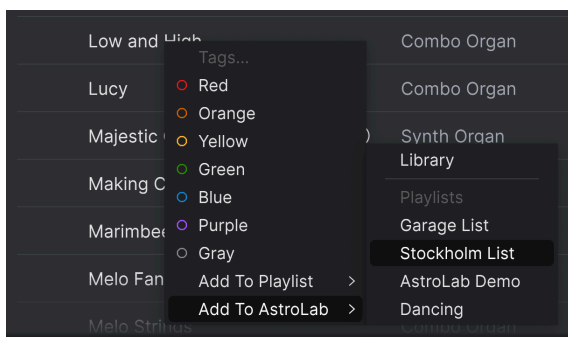
Analog Lab で AstroLab 37 のライブラリーかプレイリストを開き、プリセットをクリックします。すると、AstroLab 37 と Analog Lab の両方にそのプリセットがロードされます。

12.3.7. プリセットを AstroLab 37 のライブラリーに追加する

Analog Lab が AstroLab 37 とリンクしている場合、Analog Lab のプリセットを AstroLab 37 のライブラリーに追加することができます。Analog Lab のプリセットを左側の AstroLab 37 のライブラリーにドラッグするだけで追加できます (下图参照)。



または、Analog Lab のプリセットを右クリックして *Add To AstroLab* を選択すると、AstroLab 37 のライブラリーまたはプレイリストに追加する方法もあります。



12.3.8. AstroLab 37 のライブラリーからプリセットを削除する

Analog Lab で、AstroLab 37 のライブラリーやプレイリストに入っているプリセットを右クリックして *Delete* を選択すると、そのプリセットが削除されます。

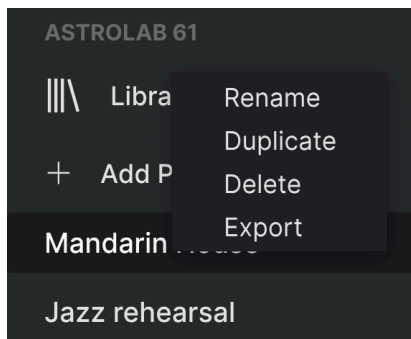
12.3.9. AstroLab 37 のプレイリストにプリセットを追加する

Analog Lab と AstroLab 37 がリンクしている場合、Analog Lab のプリセットを AstroLab 37 のプレイリストに追加することができます。Analog Lab のプリセットを左側の AstroLab 37 のプレイリストにドラッグするだけで追加できます。

または、Analog Lab のプリセットを右クリックして、AstroLab 37 のプレイリストに追加する方法もあります。


12.3.10. AstroLab 37 にプレイリストをエクスポートする

Analog Lab のプレイリストを AstroLab 37 にエクスポート (書き出し) することができます。ただし、プレイリストのエクスポートには、ユーザーサンプルは含まれません。



プレイリストがすべてのサンプルも含めて AstroLab 37 に正しくインポートされるようにするには、プレイリスト内のすべてのプリセットが AstroLab 37 に存在していることをチェックする必要があります。これは、必要なサンプルがすべてすでに AstroLab 37 上にあることを確認するためです。プレイリスト内のプリセットが AstroLab 37 にない場合は、まずそのプリセットを AstroLab 37 に送信する必要があります。

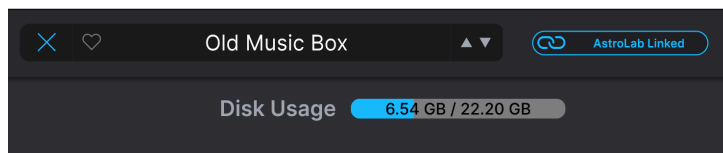
コンピュータに USB メモリーを接続してプレイリストをエクスポートし、その USB メモリーを AstroLab 37 の USB-A (Storage/MIDI) ポートに装着します。

 プレイリストの内容は、プリセットのリストがあるだけです。Analog Lab からエクスポートするプレイリストには、プリセット名があるだけで、サンプル自体は入っていません。

12.3.11. AstroLab 37 のメモリ管理と CPU

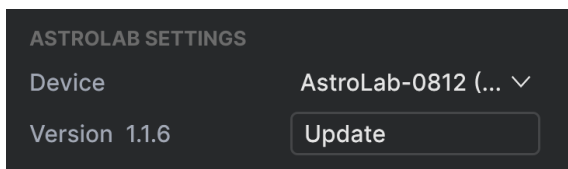
AstroLab 37 のストレージディスクの容量チェックは、簡単に行えます。まず、Analog Lab と AstroLab 37 をリンクさせます。

Analog Lab で、Explore 画面を開きます。左側のパネルにある **AstroLab Library** をクリックします。すると画面中央上部にディスク容量を示すグラフが表示されます。



12.3.12. AstroLab 37 のアップデート

Analog Lab の画面上部右側にあるギアのアイコンをクリックすると、Settings パネルが開きます。ここには4つのタブがあり、最初のタブが Settings です。

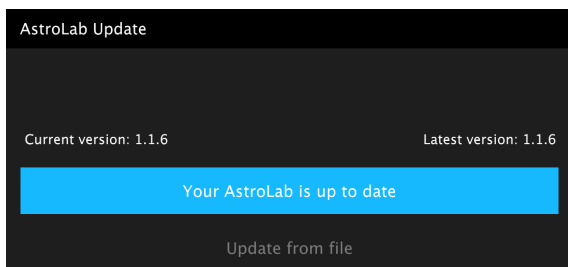


このパネルの最上部のセクションは AstroLab Settings セクションです。Device の右側で AstroLab 37 をデバイスとして選択でき、複数の AstroLab 37 を使用しているときは、ここで1つを選択できます。

! Analog Lab と通信できる AstroLab 37 は、1台だけです。複数の AstroLab 37 を USB でコンピュータに接続している場合、Analog Lab と通信できる AstroLab 37 をこのデバイス選択ボタンで選択できます。

Device の下には、AstroLab 37 の現在のファームウェアバージョン番号が「1.1.1」というように表示されます。Update をクリックすることで、AstroLab 37 パッケージの新しいバージョンをインストールできます。

この時、メニューが開いてどちらかを選択できます。



- Analog Lab から AstroLab 37 パッケージを直接アップデートします (ギアアイコンをクリックして Settings ページに入ります)。
- コンピュータにダウンロード済みのファイルをインストールしてアップデートします。ファイルには **.astro37** の拡張子がついています。

アップデートのインストール中は、コンピュータと AstroLab 37 はインストール作業に専念させてください (他の作業をしないでください)。Analog Lab と AstroLab 37 の両方でプログレスバーが表示されます。アップデートには時間がかかり、AstroLab 37 本体が何度か再起動することがあります。

! アップデート中に USB ケーブルが外れた、コンピュータの電源が切れたなど、何からの問題が発生した場合、AstroLab 37 はブルースクリーン表示になるか、起動時にサービスモードで起動します。詳しくは、次のリカバリーモードのセクションをご覧ください。

12.3.12.1. リカバリーモード

アップデート中に USB ケーブルが外れた、コンピュータの電源が切れたなど、何らかの問題が発生した場合、AstroLab 37 はブルースクリーンを表示するか、起動時にサービスモードで起動します。そのような場合には、アップデートが正しく完了するまで再試行してください。

それでもアップデートに失敗してしまった場合は、リカバリーモードでアップデートを再試行できます。手順は次の通りです。

- AstroLab 37 の電源がオフになっており、コンピュータと USB ケーブルで接続されていることをご確認ください。
- AstroLab 37 の **Oct-** と **Oct+** ボタンを押しながら電源を入れます。
- Analog Lab の画面右上にあるギアアイコンをクリックして Settings ページに入り、AstroLab Settings セクションにある Update ボタンをクリックします。するとアップデート画面が開き、前のセクション（「AstroLab 37 のアップデート」）でご紹介しました通り、Arturia のサーバーから直接、またはダウンロード済みのファイルからアップデートを行います。

13. 規制関連情報

13.1. アメリカ合衆国

警告：本製品を改造しないでください！

Arturia による明示的な承認がない本製品のいかなる改造やその他の変更を行った場合、本製品を使用するユーザーの権利が失効することがあります。

重要：本製品を周辺機器や他の製品に接続する際は、高品質なシールドケーブルのみをご使用ください。本製品に付属のケーブルを必ずご使用ください。また、すべての設置手順に従ってください。

本製品は、FCC 規則パート15の規定に準拠しています。本製品のご使用には、以下の2つの条件、(1) 本製品は有害な干渉を引き起こさないこと、(2) 本製品は、望ましくない動作を引き起こす可能性のある干渉を含め、受信したあらゆる干渉を受け入れなければならないこと、が適用されます。

注意：本製品は、FCC 規則パート15の規定に基づき、クラス B デジタル機器の規制値に適合していることが試験により確認されています。これらの規制値は、住宅環境における有害な干渉から適切に保護するために設定されています。本製品は、無線周波数エネルギーを発生、使用し、放射する可能性があります。取扱説明書に従って設置、使用しない場合、無線通信に有害な干渉を引き起こすおそれがあります。ただし、特定の設置環境において干渉が発生しないという保証はありません。本製品がラジオやテレビの受信に有害な干渉を引き起こしている場合（これは本製品の電源をオフにしてからオンにすることで確認できます）、以下の対策のいずれか、または複数を試して干渉を解消することをお勧めします：
受信アンテナの位置を変更する、またはアンテナの向きを変える。 本製品と干渉の影響を受けている機器との距離を広げる。 本製品と干渉の影響を受けている機器のコンセントを別の系統に分ける。
これらの対処法で問題が解決しない場合は、お買い上げの販売店または Arturia までお問い合わせください。

本製品は、無制御環境において定められた FCC の電磁波被曝基準に準拠しています。本製品を設置および使用する際は、放射源と身体との間に20cm以上の距離を保つ必要があります。本送信機は、他のアンテナや送信機と同一場所に設置したり、それらと併用して動作させたりしてはなりません。

上記の記載は、アメリカ合衆国で販売されている製品にのみ適用されます。

13.2. カナダ

本製品には、カナダのイノベーション・科学経済開発省 (ISED) の免許不要無線規格 (RSS) に準拠した免許不要の送信機および受信機が含まれています。本製品の使用には、以下の2つの条件、(1) 本製品は干渉を引き起こさないこと、(2) 本製品は、本製品の正常な動作を妨げる可能性のある干渉を含め、あらゆる干渉を受け入れなければならないこと、が適用されます。本製品は、カナダの ICES-003 規格に準拠したクラス B デジタル機器です。本製品は、管理されていない環境において ISED が定める電磁波被曝限度を遵守しています。本製品を設置および使用する際は、放射源と身体との間に20cm以上の距離を保つ必要があります。

L'émetteur/récepteur exempt de licence contenu dans le présent appareil est conforme aux CNR d'Innovation, Sciences et Développement économique Canada applicables aux appareils radio exempts de licence. L'exploitation est autorisée aux deux conditions suivantes : (1) l'appareil ne doit pas produire de brouillage, et (2) l'appareil doit accepter tout brouillage radioélectrique subi, même si le brouillage est susceptible d'en compromettre le fonctionnement. Cet appareil numérique de la classe B est conforme à la norme NMB-003 du Canada. Cet équipement est conforme aux limites d'exposition aux rayonnements ISED établies pour un environnement non contrôlé. Cet équipement doit être installé et utilisé à plus de 20 cm de distance entre le radiateur et votre corps.

13.3. ヨーロッパ

本製品は、無線機器に関する欧州指令 2014/53/EU の要件に準拠しています。

本製品を処分する際は、電気・電子機器廃棄物のリサイクル指定回収場所に持ち込んで処分してください。

本製品は、住宅環境 (クラス B) での使用を目的としたものです。

13.4. オーストラリア

本製品は、オーストラリア通信メディア庁 (ACMA) の無線通信 (低干渉可能性機器) クラスライセンスに準拠しています。本製品の使用に際しては、他の無線通信サービスに有害な干渉を及ぼさないことを条件とします。本製品は、住宅環境 (クラス B) での使用を目的としています。

本製品は、オーストラリア放射線防護・原子力安全庁 (ARPANSA) の高周波電磁界の最大被曝線量に関する電磁波防護基準に準拠しています。基準を確実に遵守するため、本製品を設置および使用する際は、放射源と身体との間に20cm以上の距離を保つ必要があります。

14. 付録

The mains plug is used to disconnect the device.

The socket-outlet shall be installed near the equipment and shall be easily accessible.



RECYCLING

This product bears the selective sorting symbol for Waste electrical and electronic equipment (WEEE). This means that this product must be handled pursuant to European directive 2012/19/EU in order to be recycled or dismantled to minimize its impact on the environment. User has the choice to give his product to a competent recycling organization or to the retailer when he buys a new electrical or electronic equipment.



The symbol indicates class II equipment



The symbol indicates AC voltage



The symbol indicates DC voltage



For indoor use only



The symbol indicates energy efficiency marking



The symbol indicates polarity of d.c. power connector